学校法人 城西大学　http://www.josai.jp/

東京紀尾井町キャンパス
〒102-0094　東京都千代田区紀尾井町 3-26
TEL. 03-6238-1300

城西大学
城西短期大学　http://www.josai.ac.jp/

坂戸キャンパス
〒350-0295　埼玉県坂戸市けやき台 1-1
TEL. 049-286-2233

城西国際大学　http://www.jiu.ac.jp/

東金キャンパス
〒283-8555　千葉県東金市求名 1 番地
TEL. 0475-55-8800

安房キャンパス
〒299-2862　千葉県鴨川市太海 1717
TEL. 04-7098-2800

幕張キャンパス
〒261-0023　千葉県千葉市美浜区中瀬 1-7-1
住友ケミカルエンジニアリングセンタービル 22 階
TEL. 043-297-2521

2012年4月発行

環境にやさしい再生紙を使っています。

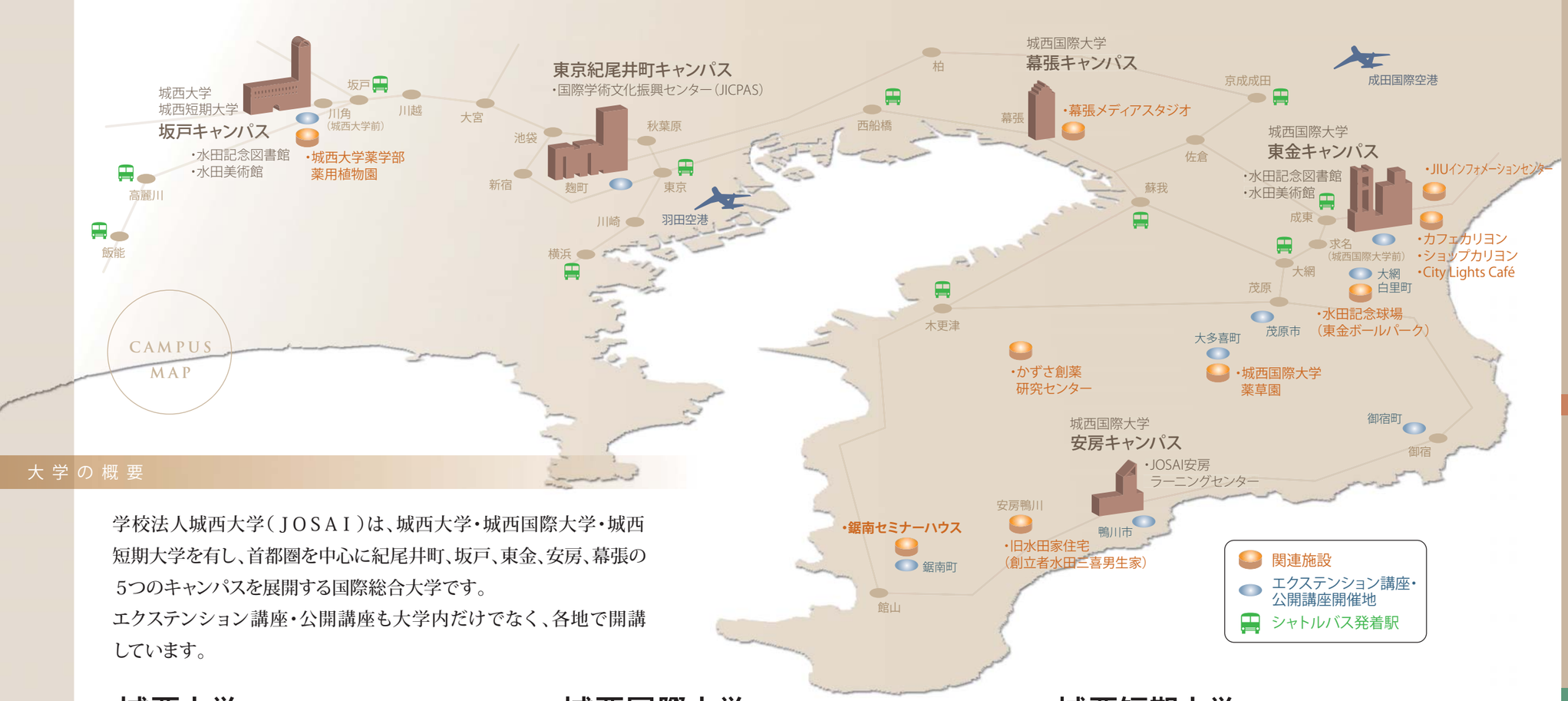
次世代育成、健康推進、グローバル教育への取り組み

大学の社会的責任を果たすために

2011

JOSAI UNIVERSITY
JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY
JOSAI JUNIOR COLLEGE

学校法人 城西大学



大学の概要

学校法人城西大学（JOSAI）は、城西大学・城西国際大学・城西短期大学を有し、首都圏を中心に紀尾井町、坂戸、東金、安房、幕張の5つのキャンパスを展開する国際総合大学です。
エクステンション講座・公開講座も大学内だけでなく、各地で開講しています。

城西大学

坂戸キャンパス

- 経済学部 □ 経済学科
- 現代政策学部 □ 社会経済システム学科
- 経営学部 □ マネジメント総合学科
- 理学部 □ 数学科
  - □ 化学科
- 薬学部 □ 薬学科（6年制）
  - □ 薬科学科（4年制）
  - □ 医療栄養学科
- 大学院 □ 経済学研究科（経済政策専攻修士課程）
  - □ 経営学研究科（ビジネス・イノベーション専攻修士課程）
  - □ 理学研究科（数学専攻修士課程）
  - □ 理学研究科（物質科学専攻修士課程）
  - □ 薬学研究科（薬学専攻博士課程）
  - □ 薬学研究科（薬科学専攻博士前期課程・博士後期課程）
  - □ 薬学研究科（医療栄養学専攻博士前期課程）
- 別科 □ 日本語専修課程
  - □ 日本文化専修課程

城西国際大学

東金キャンパス

- 経営情報学部 □ 総合経営学科
- 国際人文学部 □ 国際文化学科
  - □ 国際交流学科
- 福祉総合学部 □ 福祉総合学科
- 薬学部 □ 医療薬学科（6年制）
- メディア学部 □ メディア情報学科
- 環境社会学部 □ 環境社会学科
- 看護学部 □ 看護学科
- 大学院 □ 人文科学研究科（国際文化専攻修士課程・女性学専攻修士課程・国際アドミニストレーション専攻修士課程・比較文化専攻博士後期課程）
  - □ 経営情報学研究科（起業マネジメント専攻修士課程・同博士後期課程）
  - □ ビジネスデザイン研究科（ビジネスデザイン専攻修士課程）
  - □ 福祉総合学研究科（福祉社会専攻修士課程）
  - □ 薬学研究科（医療薬学専攻〈博士課程4年制〉）
- 留学生別科 □ 日本文化・ビジネス専修課程
  - □ 日本語専修課程

安房キャンパス

- 観光学部 □ ウェルネスツーリズム学科

幕張キャンパス

- メディア学部 □ メディア情報学科
- 国際人文学部 □ 国際文化学科（中国言語文化・韓国言語文化コース1年次）

城西短期大学〈城西ベースカレッジ〉

坂戸キャンパス・東京紀尾井町キャンパス

- ビジネス総合学科 □

東京紀尾井町キャンパス
〒102-0094　東京都千代田区紀尾井町 3-26
TEL. 03-6238-1300

坂戸キャンパス
〒350-0295　埼玉県坂戸市けやき台 1-1
TEL. 049-286-2233

東金キャンパス
〒283-8555　千葉県東金市求名 1 番地
TEL. 0475-55-8800

安房キャンパス
〒299-2862　千葉県鴨川市太海 1717
TEL. 04-7098-2800

幕張キャンパス
〒261-0023　千葉県千葉市美浜区中瀬 1-7-1
住友ケミカルエンジニアリングセンタービル 22 階
TEL. 043-297-2521

CONTENTS

3 理事長緒言
次世代育成、健康推進、グローバル教育への取り組み
大学の社会的責任を果たすために

地域・社会貢献活動
5 東日本大震災 復興支援活動
9 美術館関連
11 埼玉・坂戸地域の活性化
13 東金・鴨川・千葉地域の活性化
15 政策提言による社会貢献
19 産学連携

国際社会への貢献
21 ハンガリーとの交流
23 中国との交流
25 広がる国際交流

文化振興・文化資源保存活動
27 子どもたちとともに
30 文化・出版を通しての貢献
33 房総地域
35 文化財修復・保存
36 建築賞受賞
37 Message
38 編集後記

学校法人 城西大学
理事長
水田宗子

2011
JOSAI UNIVERSITY
JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY
JOSAI JUNIOR COLLEGE

次世代育成、健康推進、グローバル教育への取り組み

大学の社会的責任を果たすために

学校法人城西大学は、城西大学・城西国際大学・城西短期大学を持ち、首都圏を中心に5つのキャンパス(紀尾井町、坂戸、東金、鴨川、幕張)において、大学としての社会的責任を果たすべく、次世代育成、健康推進、グローバル教育をキーワードに、大学における教育・研究に加えて、地域・社会貢献、国際社会への貢献、文化振興・文化資源保存活動など、多岐にわたって活発な活動を展開してまいりました。2011年度におけるこれらの代表的な取り組みについて本冊子に紹介しましたので、ご覧ください。

地域・社会貢献活動　各キャンパスにおいて、地域の社会や文化・教育・環境保護などに貢献する活動を幅広く行なっています。また、大学の学部や立地などの特徴をいかしたエクステンション講座を学内・外で開講し、毎年多くの受講生で賑わっています。

特に今年度は、3月11日に発生して未曾有の被害をもたらした東日本大震災に対し、被災された本学の学生の支援として基金を設立、また各種チャリティーイベントやボランティア活動をはじめ、防災に関する研究・講座・政策提言等を積極的に行いました。

また、産学連携では日活やJTB法人東京、エイベックス・プランニング＆デベロップメントとの提携により、実践的な各種人材育成プログラムを推進しています。

政策提言活動としては、産学官協働事業の拠点となるイノベーションセンターや、世界でリーダーシップを発揮できる人材育成教育を目的にした大学院センターの開設等を行い、活発に活動しています。また、グローバル女性人材育成プログラムと連動した「日中経済経営フォーラム」等も開催しました。

国際社会への貢献　国際性・専門性を備えたグローバル人材の育成を目指して、世界各地の大学と教育ネットワークを結び、各種の国際教育プログラムを積極的に実施しています。

2011年度は、これまでの本学のハンガリーとの教育交流に関する貢献が評価されて、ハンガリー共和国より水田理事長へ文化勲章が授与されました。また、中国では国内2番目の教育交流拠点として北京事務所を開設し、城西大連・学友会や天津学友会が発足して活発に活動するなど、交流がますます広がっています。特に日本語教育の面では教育効果が高く評価されており、天津で開催された世界日本語学会では、基調講演だけでなく本学の日本語教育が注目されました。

その他の国や地域との交流も進み、海外の12大学と新たに学術交流協定を締結しました。今後のさらなる国際教育交流ネットワークの充実・強化が期待されます。

文化振興・保存活動　両大学に水田記念美術館を設置、創立者水田三喜男の浮世絵コレクションの一般公開をはじめ、地元ゆかりの画家の特別展を催しており、多くの方々にご来場いただいております。そして2011年12月には、学校法人城西大学創立45周年記念事業として、坂戸キャンパスに城西大学水田美術館があらたに開館しました。幅広く展覧会や企画展などを開催し、地域の皆様に愛され喜ばれる美術館を目指します。

また、2006年にはじまった、外房と内房をつなぐ生活道路である嶺岡林道の桜並木の修復もJIU観光学部と地元の方々が一緒になり、桜並木が鋸南町まで続くよう大切に大きく育てています。

また、各キャンパスや施設の景観にも心を砕き、いくつもの建築賞（清光会館：1992年さいたま景観賞、鋸南セミナーハウス：第12回千葉県建築文化賞／第32回東京建築賞建築作品コンクール優秀賞、JIUランドスケープデザイン：1996年日本建築学会賞・2006年日本造園学会賞、水田家生家：第10回千葉県県築文化賞、JU経営学部棟：2008年全米建築学会Merit賞）を受賞しています。

城西国際大学は2012年4月に創立20周年を迎え、城西大学は2015年に創立50周年を迎えます。本学は、幅広い教養と深い専門性を持ち、問題解決にあたる国際的な人材を育成し、アジア・世界でのリーディング・ユニバーシティになることを中期目標《J-Vision》として掲げました。この目標を実現し、全学一丸となってさらなる飛躍を目指します。

そして、これまでの地道な活動を大切にしつつ、これからも継続的に次世代に文化を伝え、人材を育成し、健康で豊かな暮らしのため大学の「知の還元」をはかり、国内外の文化・研究交流の推進に取り組んでまいります。

本冊子を通して、学校法人城西大学の取り組みについてご理解いただければ幸いです。

学校法人 城西大学
理事長
水田宗子

東日本大震災 復興支援活動

2011年3月11日に発生して未曾有の被害をもたらした東日本大震災において、被害にあわれた方々に心よりお見舞いを申し上げます。

学校法人城西大学は、被災された本学の学生の支援として基金を設立、また各種チャリティーイベントやボランティア活動をはじめ、防災に関する研究・講座・政策提言等のさまざまな活動を積極的に行いました。

本学の被災学生を総合的に支援

被災学生支援適用通知書授与式のようす

学校法人城西大学では、東日本大震災で被災された本学の学生の勉学支援、生活支援を目的として、水田宗子理事長からの600万円を核に法人役員、教職員、同窓会、学生および父母からの寄付からなる「被災学生生活支援基金」を設立しました。
この基金により、地震、津波、原発事故で家族が被災や避難をした学生・新入生を対象に、被害の状況に応じて緊急特別支援制度（入学金、授業料等の免除）、被災学生生活支援奨学制度（月額3万円を4ヶ月間生活支援奨学金として給付）によって総合的に支援してきました。

2011年6月3日東金キャンパスにおいて、当該奨学制度の適用者に対して、水田宗子理事長、柳澤伯夫学長より学生一人一人に決定通知書の交付をおこないました。そしてこれを皮切りに、今年度累計で城西大学、城西国際大学あわせて202名の学生に対し適用・支援を行いました。

なお、本学自体は今回の大震災の直接的被害は殆どなく、学生・教職員とも怪我などはありませんでしたが、学生・留学生が安心して充実したキャンパスライフを送ることができるよう、安心・安全なキャンパスに向けた一層の整備充実を進めるとともに、さまざまな情報提供もおこなってきました。

JTBと連携して震災復興支援実地調査を実施

ボランティア活動に従事

2011年9月30日～10月2日、城西国際大学観光学部の21名の学生達が、JTB法人東京との連携活動の一つとして宮城県に震災復興支援の実地調査に訪れました。中国からの留学生4名を含めた8名の調査チームはJTB法人東京の社員と共に復旧・復興の現状や観光施設の現状、風評被害や今後の観光事業のあり方などについて松島町の観光協会や石巻市のNPO関係者、南三陸町のホテル関係者などから詳しくヒアリングを行いました。また調査と共に、石巻の牡鹿公民館周辺でボランティア活動を行うなど、これまでニュースや新聞などの報道で流れていた情報だけでなく、震災半年後のありのままの姿を目の当たりにして、今後の復興に向けて被災地が抱える様々な問題点や課題を認識しました。

JTB法人東京と連携した事前学習・現地調査・事後学習を通じて、観光客が減少した観光学部のある鴨川エリアに観光客を呼び戻すために何をするべきか考え、10月16日に安房キャンパスで開催された「ウェルネス交流DAY」にて発表しました。発表の中で、日本で生活する留学生が自身のブログで「生の情報を発信していくべき」と発表した観光学部の留学生の梁鎮輝君（中国・広東省出身）は、10月21日放送のNHK総合テレビ「首都圏ネットワーク」の震災半年後を見つめる特集「震災から、新たな生き方へ」でも取り上げられました。放送内容については、NHKホームページよりご覧いただけます。

◆ NHKホームページ　**http://www.nhk.or.jp/shutoken/project/shin1/index111021.html**

東日本大震災 復興支援活動

旧赤プリ避難者向けに「衣料品寄贈イベント」を開催

寄せ書きに見入る親子連れ

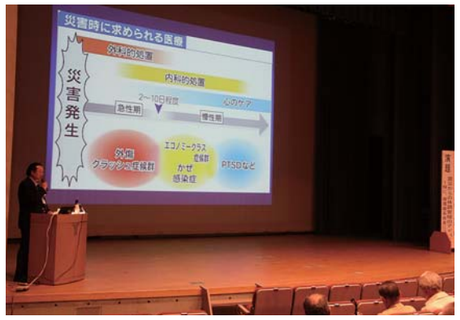
バザー会場の様子

2011年6月25日紀尾井町キャンパスで、東日本大震災で被災された方々への支援バザーが開かれました。このバザーは地元の千代田区社会福祉協議会が主催し、学校法人城西大学が協力して会場を提供したものです。福島県などからキャンパス近くの旧グランドプリンスホテル赤坂に避難をされていた方々約300人が会場を訪れました。

会場には、顧客から善意で「丸井」グループに寄せられた衣料品類が並べられました。多くの被災者の方々から主に夏用の衣類を希望する声が寄せられ、今回のバザーとなりました。

また会場には、被災者の方々を勇気づけようと本学の学生による応援メッセージの寄せ書き「がんばろう日本　Team JOSAI」パネルが通路に沿って何枚も掲示されました。被災者の方々は「同じ東北人として一緒にがんばろう」、「いわき　がんばっぺ！！」などと書かれた励ましの寄せ書きを食い入るように見つめていました。福島第一原発の近くに住み、4月以来避難生活をしているという女性は「若い学生さんらの励ましには涙が出る思いです」と話していました。

東日本大震災をテーマに全8回の公開講座を開催



公開講座の模様

城西大学では、2011年10月に、東日本大震災をテーマにした全8回の公開講座を坂戸キャンパス清光会館にて開催しました。本講座は、本学の教育研究の成果を広く地域に開放し、高度化、多様化する地域住民の学習意欲と地域社会のニーズに応えることを趣旨として開催しているものです。

今年は「２１世紀を生きる～東日本大震災を乗り越える～」をテーマに、薬学や経済学・理学・経営学・語学や体育など、本学の各学部ならではの視点にたって東日本大震災を振り返り、今後の防災に役立ててもらおうと企画・開催しました。

全8講座の講演内容

「東日本大震災から考える健康体力づくり運動の必要性」（10月１日）
「震災からの体調管理のアドバイスー特に、循環器系疾患についてー」（10月５日）
「大震災からのメッセージ：What Happened?・发生了什么？・何が起きているのか」（10月８日）
「原子力発電のコストと将来」（10月13日）
「災害時の栄養・食生活ー東日本大震災をうけてー」（10月15日）
「地震を正しく知るー地震の基本事項と東北地方太平洋沖地震の概要ー」（10月19日）
「大震災時のお金のルールー預金・ローン・保険について知っておきたいことー」（10月26日）
「東日本大震災と自動車リサイクル」（10月29日）

東日本大震災 復興支援活動

千葉県旭市でのボランティア活動に参加

ボランティアに励む学生達

城西国際大学教職員有志とNGO・NPO支援センターでは、東日本大震災により千葉県旭市沿岸部などで被災された方々へのボランティア活動を2011年3月から5月にかけて実施しました。
震災発生直後の3月には、東金キャンパスに程近い旭市でいち早く立ちあがった災害ボランティアセンターから要請を受けて、大学のマイクロバスなどを用いてボランティアの方達の送迎を実施しました。

その後、3月末には旭市社会福祉協議会からの要請を受け、NGO・NPO支援センターが中心となって活動を行う事になりました。国際人文学部国際交流学科をはじめとして、福祉総合、メディア、環境社会学部などの学生・教員からなるボランティア活動チームを編成し、延べ30名が現地を3回にわたり訪問しました。

感謝状

城西国際大学 様

貴校は東日本大震災において旭市災害ボランティアセンターの運営に多大な貢献をされましたことに深く感謝の意を表します

平成二十三年四月六日

社会福祉法人旭市社会福祉協議会

会長 島野文夫

現地では、社会福祉協議会の担当者と連携しながら浸水した家屋や倉庫の片付けや清掃、床下に積もった土砂の除去などを行いました。参加した学生達は災害ボランティアを行ったことのない者ばかりでしたが、近隣の旭市の早期復興のために、慣れない仕事に全員が力を合わせて奮闘し、ボランティアの要請を頂いたご高齢の方々から大変感謝されました。また5月29日に旭市で催された復興チャリティバザーにも参加し、その売上を全額旭市に寄付しました。その後も学生部学生課が中心となり、ボランティア学生の派遣を継続的に実施しています。

なお、これら一連の活動に、同協議会から感謝状をいただきました。

遊休地の米作りで坂戸市内の被災者を支援

夏休みを返上しての米作り

坂戸市長にお米を贈呈

城西大学現代政策学部では、2009年度より「耕作放棄地活用プロジェクト」に取り組んでおり、3年目となる今年度は坂戸市農業振興課からの提案に応えるかたちで、坂戸市内に避難されている東日本大震災の被災者の方々へお届けする食用米（きぬひかり）の栽培に地元の農家の方々と協力しながら取り組みました。学生たちは田植え作業から毎日２回の水管理に至るまでの米づくりの過程にたずさわり、秋には約470kgのお米を収穫することができました。ご協力いただいた農家の方からも「出来栄えは上々」との評価をいただき、夏休みも返上して取り組んだ苦労が報われました。

収穫したお米は市職員と学生が精米して坂戸市長に贈呈した後に、約60世帯の被災者の方々にお届けし、皆様に美味しく食べていただきました。

また、学生たちは耕作放棄地を活用して葉酸を多く含む野菜である小松菜とほうれん草を栽培し、日本薬膳株式会社がそれらを原材料とした薬膳カレーを開発、市と共同で試作品を吟味しながら、産学官が連携して製品化しました。学生たちはこのカレーに「健康支援」「地域農業支援」「震災復興支援」という３つの想いを込めて、「情熱カレー」と名付けました。11月に行われた高麗祭で販売し、薬膳＋野菜でヘルシーなことに加えて味も良いとの評価を頂いて、700食以上販売することができました。なお、この売上の一部を被災地へ寄付する予定です。

これら一連の活動によって実践学習の効果を上げると共に、被災者の方々への大きな支援につなげることができました。

東日本大震災 復興支援活動

被災学生支援に向け、各種チャリティーを開催

チャリティーコンサートの様子

城西国際大学では、東日本大震災で被災された学生達への支援に向け、数々のチャリティー活動を積極的に行いました。

四川大地震のあった中国の留学生たちから「私達も被災した方々のために何かやりたい」という声が上がり、2011年4月13日に東金キャンパスにて“餃子チャリティー”を開催しました。餃子の具材や容器などは職員からの提供もあり、学生たちが数種類の本場の水餃子を調理し販売をしました。ブースには販売開始前から多数の学生や教職員が集まり、用意した水餃子は2時間もたたないうちに完売する盛況ぶりでした。

4月28日には、チャリティーバザーを東金キャンパスにて開催しました。当日は新入生のご父母や大学近隣の方々などが来られ、多くの方からご提供いただいた日用品や衣料などが多数用意されたバザー会場は大変な賑わいを見せました。

また、5月15日には吹奏楽団がチャリティーコンサートを東金キャンパスで開催し、大学近隣の福祉施設の方や近隣住民の方など多くの方にお越しいただきました。吹奏楽団の演奏が終わるたびに、会場となった水田記念ホールは盛大な拍手に包まれ、チャリティーコンサートは大盛況のうちに終了しました。

なお、一連のチャリティーバザーでの売上金は被災された学生達への支援金となりました。

福祉総合学部が岩手県宮古市で震災関連ボランティア

仮設住宅へ生活物資を搬入する学生たち

城西国際大学福祉総合学部では、東日本大震災で被災した地域の方々に対し、福祉や介護の視点からの支援活動を目的に2011年8月5日～8日に岩手県宮古市でボランティア活動を行いました。

同学部石田ゼミの学生10名は、春からの学内募金活動や現地に向けた千羽鶴、メッセージ色紙作りなどを経て8月5日に宮古市に入り、真夏の炎天下の被災地で約200軒の仮設住宅への支援物資の搬入や、津波によって土砂に埋まった家屋や庭からの泥出し等の作業に従事しました。参加した学生たちには、福祉を志す者として「自分たちに何ができるのか、何をすれば元気をだしてもらえるのか」ということを改めて考える大変貴重な機会になりました。また、被災者の皆様や全国から集まったボランティア団体の方々との交流を通じて、人と人との絆の大事さを学ぶこともできました。

なお、福祉総合学部では平成21年度文部科学省「学生支援推進事業（GP）」の「介護専門職の就職促進に資する国際基準と養成プログラムの開発」企画の採択を機に国際介護専門職養成センターを開設しており、同センターが実施している「第10回国際介護フォーラム」において、大網白里町社会福祉協議会主催「ふれあい大学」の受講生である市民28名と『地域社会でのボランティア活動』をテーマにした合同授業を行いました。その中で、前述の宮古市での支援活動報告を行うと共に、市民や福祉を学ぶ学生として被災地に対して何ができるのかを話し合いました。「ふれあい大学」の受講生からは「今の学生たちが、これほどボランティア活動に取り組んでいることを知ってうれしく感じた」「千葉県からどのような支援の方法があるかを、もう一度考えてみたい」等の感想が述べられました。

美術館（開館）

学校法人城西大学創立45周年記念事業 城西大学美術館オープン ～2012年度 全米建築学会Merit賞 受賞～

学校法人城西大学創立45周年記念事業として建設を進めてきた城西大学水田美術館が、2011年12月9日に開館しました。

城西大学水田美術館は、本学の創始者である水田三喜男先生が生前に蒐集した浮世絵コレクションを母胎として、昭和54年に水田記念図書館内に創設されました。そして、地域の皆様をはじめとした幅広い方々に浮世絵を鑑賞いただくと共に、日本の文化の発展に寄与することを目的としてコレクションの公開を行い、好評をいただいてきました。その流れを引き継ぎ、学校法人城西大学創立45周年記念事業の一環として新たに独立した建物として水田美術館が建設されたものです。

この新美術館は、水田コレクションの公開と共に、坂戸市・埼玉県など地域ゆかりの文化の紹介等も積極的に行うことによって、さらなる地域交流の活性化や地域文化発展への貢献を目指します。

オープン当日は、開館に先立つ神事のあと、美術館入り口にて水田宗子理事長をはじめとする学校関係者、設計・建設、行政関係者などによるテープカットが行われ、12時に華々しくオープンしました。そして、招待された約170名の関係者やお客様、TV局や新聞社などのマスコミができたばかりの館内を内覧されましたが、それ以外にも近隣の方々や学生など合計約650名の方が訪れ、各ギャラリーの展示物を熱心に見学されていました。

美術館は地上2階建て、延べ床面積670m²で、館内に3つのギャラリーを有しています。オープンに合わせて、ギャラリー1では本学が所蔵する浮世絵の作品群の中から、オープンを記念して当日限りの「水田コレクション浮世絵名品展」として鈴木春信の『六玉川』六枚揃や、喜多川歌麿の『橋下の釣』などを特別公開しました。ギャラリー2では、近代日本風景画家として著名な橋本博英展を2月まで行いました。また、フレキシブルな展示が可能なギャラリー3では、城西大学の歴史と歩みを振り返る写真パネル展や、2012年の箱根大学駅伝での闘いを振り返る写真パネル展などを実施しています。さらに、元内閣総理大臣で現在は陶芸家としても有名な細川護熙氏の作品も展示されています。

美術館では、地域の皆様に愛される美術館を目指し、今後もさまざまなテーマの展示会を企画・実施していく予定です。

なお、本美術館は、米国建築家協会ニューヨーク支部より2012年度Merit賞を受賞しました。

美術館外観

オープン前のテープカット

来場者で賑わうギャラリー

オープン当日限りで特別公開された浮世絵の数々

美術館（イベント）

学校法人城西大学創立45周年事業・城西大学水田美術館建設記念シンポジウム「近世版画の色と技」を開催

2011年6月18日、城西大学水田美術館の建設を記念したシンポジウム「近世版画の色と技」が、紀尾井町キャンパスにて開催され、浮世絵愛好者や研究者ら約180名を超える方々が来場されました。

シンポジウムでは、浮世絵や近世絵画、文化財研究の分野の第一線で活躍されている、学習院大学教授、千葉市美術館館長・小林忠氏、千葉市美術館学芸課長・田辺昌子氏、静岡県立美術館学芸員・福士雄也氏、吉備国際大学教授・下山進氏の4氏をお招きし、江戸時代の多様な版画芸術について色彩と技法の観点からご発表いただきました。

小林氏の基調講演「浮世絵版画の色彩表現」では、浮世絵版画の歴史、鈴木春信や喜多川歌麿などの錦絵の色や摺り技法について、多数の作品画像を示されながらお話しいただきました。

続いて、浮世絵版画の摺りの実演会では、アダチ版画研究所の中山周氏による解説のもと、摺師の仲田昇氏によって、写楽《松本米三郎のけはい坂の少将実はしのぶ》の摺りが実演されました。研究発表では、田辺氏が「錦絵創始期の色と流通―鈴木春信を中心に―」、福士氏が「上方版画と伊藤若冲」、下山氏が「文化財非破壊分析法による浮世絵版画の色材調査」と題し、江戸の浮世絵や上方の版画、その色彩や技法、絵具の種類などについて、最新の研究成果をご発表されました。

このシンポジウムを通じて、浮世絵をはじめとする近世版画について、技術の面から見た多様性や奥深さを多くの方に感じていただき、その文化的な価値の高さをご理解いただく事に貢献しました。

小林忠先生による基調講演

浮世絵版画の摺りの実演

「東京国立博物館特別展「写楽」に本学美術館所蔵２点を貸出しました」

上野の東京国立博物館で5月1日から6月12日まで開催した特別展「写楽」に、学校法人城西大学水田美術館が所蔵する東洲斎写楽の錦絵2点が出品されました。《岩井喜代太郎の鷺坂左内妻藤波と坂東善次の鷲塚官太夫の妻小笹》は、無名の写楽が28枚の豪華な雲母摺の大首絵で突然デビューを果たした第1期のうち、現存数の稀な1図です。《嵐龍蔵の奴浮世又平》は役柄の性格を全身で表した第2期の優品。写楽作品の中でも2点はとりわけ貴重であるため、東京国立博物館から本学へ貸し出しの依頼があったものです。

本展示会は写楽の全貌を明らかにする空前絶後の展覧会であり、その中で本学美術館所蔵の作品を位置づけ、また他機関所蔵作品と比較鑑賞できる良い機会となりました。

「岩井喜代太郎の
鷺坂左内妻藤波と坂東善次の
鷲塚官太夫の妻小笹」

「嵐龍蔵の奴浮世又平」

箱根駅伝で2度目のシード権獲得

2012年1月に行われた第88回東京箱根間往復大学駅伝において、城西大学男子駅伝部が総合6位の入賞を果たし、2度目となるシード権を獲得しました。

昨年の87回大会では惜しくも3秒差でシード権を逃し、この一年間"不撓不屈～箱根過去最高順位～"を目標にチーム一丸となって猛練習を積んできました。

そして大会に向け、地元坂戸市でも市役所に大きな懸垂幕をかけ、1Fロビーに寄せ書きを設置、市民の方々が多数の応援メッセージを書き込んでくれました。また、坂戸駅前のサンロード商店街でも城西大学のフラッグを多数掲げていただくなど、大学と市が一体となって大会へ向けて雰囲気を大きく盛り上げることができました。さらに当日には伊利市長を団長とする坂戸市民応援団が、バスをチャーターして東京大手町のスタート地点に駆けつけてくださり、選手にエールを送ってくれました。

その結果、選手全員の力走で往路はチーム過去最高の5位を記録、総合成績においても過去最高記録と並ぶ6位入賞を果たし、第86回に続く2度目のシード権を獲得しました。

大会後の1月19日に行われた学内の駅伝報告会では、水田理事長が「今回の好成績は監督・選手達をはじめとする駅伝部の頑張りはもちろんですが、市をあげてサポートや応援をいただいた坂戸市や沿道で応援していただいた地域の皆様、近隣市町村の方々、全国のOBや関係者の方々のバックアップがあってこそのものです。また同時に、6位入賞によって地域の盛り上げ、活性化に少しでも貢献できたと思います。」と挨拶しました。

また、櫛部駅伝部監督は「今年は、3秒差をいかに埋めるかをテーマに取り組みました。夏合宿等では苦しみましたが、秋から全体が形になり始め、冬には戦える自信がつきました。今回の結果に甘んじることなく、日々の練習を見なおして内面を含めた強化を図っていきたい。」と力強く挨拶しました。

なお、坂戸市広報誌「広報さかど」2月号にて、各選手の懸命に走る姿が、応援する伊利坂戸市長の姿と共に表紙を飾りました。

駅伝部は来年の大会に向けて練習に取り組んでおり、5位以上の上位進出を果たすことにより、地域へのいっそうの貢献を目指します。

往路スタート地点

ゴールテープを切る10区走者の山本選手

力走後の報告会にて

市役所の懸垂幕

坂戸市広報誌の表紙を飾る

埼玉・坂戸地域の活性化

中国進出のための若手人材育成 ～大連研修プログラム～

城西大学と大連理工大学は、共同で埼玉県内企業の若手社員を対象にした中国・大連研修プログラムを2011年10月31日～11月25日で実施しました。本研修は、グローバル人材育成を大きな政策の柱として推進している埼玉県と（財）埼玉県産業振興公社の後援により実現したもので、中国理解および中国でのビジネス全般の学習、自社の中国展開の可能性の調査、中国での豊富な人脈づくりなどを目的にしています。

大連市は、日本企業も多く進出して中国経済をリードしており、社員研修には格好の現場です。また大連理工大学は、特にMBAが高く評価されている中国トップクラスの大学で、城西大学と学術交流協定を締結して活発な交流活動を行っている関係から、今回の研修が実現しました。

修了証書を手にする参加者たち

県内の製造業やサービス業に従事する9名が4週間の研修に参加し、大連理工大学工商管理学院等の講師陣から中国の産業や経営に関する講義や中国語基礎講座、大連ビジネス界の講師陣による特別講義を受講しました。

また、企業に勤務しながら大連理工大学MBAコースに在籍する大学院生や城西大学大連東北学友会との交流会も開かれました。そして最終日には、大連理工大学と城西大学との連名による修了証書が参加者全員に授与されました。

帰国後埼玉県産業振興公社にて研修成果発表会を行い、各人の得た成果や今後に向けた課題などを発表しました。参加者が今回の研修で学んだことを活かして自社の中国進出に向かって活躍し、埼玉県の産業振興と経済発展に貢献されることが期待されます。

医療栄養学科の学生が作成した料理レシピ集

城西大学薬学部医療栄養学科（管理栄養士養成課程）は、開設11年目を迎え、栄養学に裏打ちされた食事設計の重要性をこれまで以上に発信していくことを目的に「城西大学薬学部医療栄養学科の学生が作成した料理レシピ集2011年版」を初めて作成しました。

学生が授業で学んだ健常者、生活習慣病予防、傷病者の食生活についての様々な「知識」は、工夫を凝らした献立や料理レシピを作成する「技術」と「センス」を養うことによって「おいしい食事」に変貌します。

レシピ集表紙

調理系の学内実習は1 年生から3 年生までありますが、自分の作成したメニューを実際に料理し、きれいに盛り付けて試食する機会は多くありません。そこで、様々な実習で自宅調理課題として、レシピと共に写真を提出してもらう取り組みを2007年より開始しました。

今回のレシピ集では2008 年からの3 年間に、学生が取り組んだ自宅課題および実習で作成した料理作品の一部（50作品）を収載しました。また、料理コンテストへの挑戦の記録では、医療栄養学科で学んだ知識と技術をベースにした社会貢献活動の一環として、学生が自主的に取り組んで応募した透析患者さんのためのレシピコンテストの応募作品（準グランプリ受賞）を掲載しました。

この冊子は、学生の創造力育成とその発信を目的として2012年以降も継続的に作成し、学内外の様々な場面で活用していく予定です。

2012年4月「看護学部」「大学院薬学研究科 医療薬学専攻」開設

自治体・病院奨学金説明会の様子

城西国際大学では、「看護学部看護学科」と「大学院薬学研究科医療薬学専攻（博士課程、4年制）」を2012年4月に開設しました。

看護学部では、薬学部や福祉総合学部など7学部を有する本学ならではの幅広い学部連携教育により、服薬の専門知識をもった看護師、治験に強い看護師、福祉の知識をあわせ持ち介護に強い看護師など看護の専門スキルに加えて、薬学や福祉に強い看護師、外国語を身につけ国際的に活躍できる看護師の育成をしていきます。また、1年次より通常の授業に組み込む形で海外研修を導入しているのも大きな特長です。さらに、さんむ医療センターや成田赤十字病院など、県内をはじめとする複数の病院が実習先となっており、近隣の医療機関と連携して地域に根ざした高い実践力が身に付けられます。

また、看護学部入学予定者を対象にした自治体・病院の奨学制度もあり、2012年1月21日にその説明会が実施されました。対象となる11病院や東金市役所、山武市役所の担当者から奨学金制度に関する説明があり、入学予定者のみなさんは奨学金制度の詳細や卒業後の進路などの説明に熱心に耳を傾けていました。

大学院薬学研究科医療薬学専攻博士課程は医療薬学・臨床薬学・生命薬学・創製薬学分野から構成され「高齢化と国際化が進む日本社会における保健・医療・福祉のニーズに即し、薬物治療に関わる臨床・実務において科学的洞察力とリーダーシップを有する薬剤師」と、「薬学関連の幅広い社会で活躍できる専門家、薬剤疫学や医薬品評価科学に秀でた力量を有する専門家や、研究力のある医療薬学分野の指導者等」を養成することを目的としています。

教育プログラムは高度医療薬学教育の実践であり、実務実践力と研究力を備え、新時代のライフイノベーションの推進に貢献し、広く社会から信頼される人材を育成していきます。

地域福祉・医療研究センター設立

福祉総合学部と薬学部の協働教育授業風景

城西国際大学は、2012年度の看護学部の設立にあわせ、地域医療における病院、薬局、介護施設、福祉施設等などの連携や、地域医療・福祉に貢献することを目指して「地域福祉・医療研究センター」を2011年11月に設立しました。同センターは、本学における福祉総合、薬学、看護の3学部の教育資源の統合をサポートし、連携した活動の効率化をはかる教育・研究組織として、次の3つの活動を推進していきます。

「福祉総合学部、薬学部、看護学部の教育連携体制構築の支援」

地域医療の発展・充実に総合的に寄与できる人材育成に向け、各学部の「福祉・医療」、「地域医療」、「国際性」等に関わる教育の一部を協働で行い、学部を越えた教員交流をプロデュースします。

「地域の福祉・医療課題に対応する介護、医療連携体制の構築」

地域医療に関わる情報・課題を収集し、各学部の共同研究を企画、運営します。

「国際的な視野からの地域福祉・医療の教育・研究」

各学部の国際的な地域福祉・医療の教育・研究をサポートし、連携を図ります。また、国際的な医療ニーズに対応できる看護人材の教育および看護研究を行います。

東金・鴨川・千葉地域の活性化

サッカー場建設に向け起工式

サッカー場完成予想CG

2012年2月2日、城西国際大学は、日本サッカー協会の川淵三郎名誉会長や沼田貞昭元カナダ大使、ならびに石橋清孝県議、志賀直温東金市長をはじめとした約100名の関係者の出席のもと、サッカー場およびクラブハウス建設起工式を執り行いました。

これは、城西国際大学創立20周年記念事業の一環として建設されるもので、これら施設の活用により、本学の建学の精神に則ったスポーツによる人間形成を通じて、本学の教育理念である「国際社会で生きる人間としての人格形成」を目指します。また、サッカーを通じて、リーダーシップとチームプレイを学び、併せて社会人基礎力の醸成をはかることを目指しています。

あわせて、高齢者のウェルネスの観点からも、こころと体の健康を支える活動の企画や、地域医療における貢献を考えていきます。さらに今後は、世界各地の本学姉妹校との親善試合なども予定しており、これらを通して学生の国際性を育みます。なお、サッカー場は5月完成予定です。

鴨川市が舞台のアニメと連動した市のPRに観光学部生が協力

輪廻のラグランジェ
©ラグランジェ・プロジェクト

城西国際大学観光学部がある鴨川市を舞台にして、2012年1月よりチバテレビ、読売テレビなどで放送がスタートしたアニメ「輪廻のラグランジェ」と連動した市のPRに、観光学部が協力しています。

鴨川市では、地域経済の核となる各団体、教育機関や行政機関など、官民一体となったオール鴨川の体制のもと、アニメという新たなコンテンツと鴨川市が持つ地域資源とを結びつけ、地域活性化に取り組むことを目的に「『輪廻のラグランジェ』鴨川推進委員会」が発足しました。観光学部の学生も同委員会のメンバーとして、同アニメの普及活動や、アニメファンの誘客に向けた仕組みづくり、特産品の開発や誘客イベントの実施などのさまざまな企画を提案しています。今後の展開にご期待下さい。

九十九里地域医療夏期セミナー 2011

認知予防症プログラムSTEPに参加

2011年8月27・28日に九十九里地域医療夏期セミナー2011（主催：千葉県立東金病院、共催：城西国際大学ほか）が開催され、城西国際大学教員および12名の薬学生が参加しました。

本セミナーは「多職種協同共育」をテーマに、地域の医療を育てることを目的に医師、薬剤師、看護師をはじめとする医療従事者や地域医療に関心を寄せる多分野の学生が参加し、地域住民・行政・医療関係者から直接、地域医療の現状や期待など生の声をヒアリングするとともに、地域医療の第一線に赴き、講演やワークショップを通して日々の診療に有用な知識、技能を獲得するものです。

セミナーの1日目は東金市を中心に九十九里地域を巡り、患者・家族・医療従事者等との対話やヒアリングを行い、2日目は本学にて、薬学部の小嶋教授が「高血圧について考える」というテーマでワークショップを行いました。

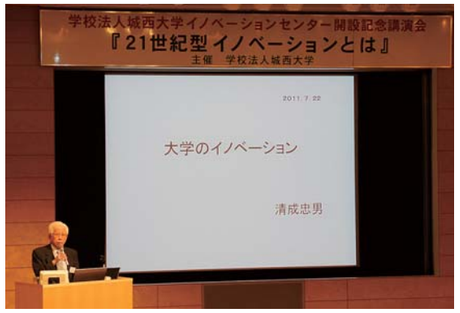
セミナーに参加した学生からは、「多職種と連携して地域を支援できる薬剤師を目指したい」、「患者さんをより理解し、支えとなる薬剤師を目指したい」などの声が聞かれました。

今後もこのような経験を積み重ね、それぞれが「目指す薬剤師像」に近づくための医療人教育を実践していきます。

「イノベーションセンター」を開設し、研究会を推進

学校法人城西大学は、2011年7月22日、産学官協働事業や海外の大学との共同研究などの拠点となる「イノベーションセンター」を開設しました。

同センターは、これまで学校法人城西大学が長きにわたって取り組んできた“社会に貢献する人材の育成”と“地域や企業との連携による社会貢献”をより一層積極的に推進して、国内外の産学官の連携に関する事業、大学の知的財産および外的資金導入に関する事業、地域振興に関連する各種協働事業、海外大学との共同事業などにより新たなイノベーションを実現し、さらなる人材育成、社会貢献を目指して開設したものです。



イノベーションセンター清成顧問の講演の様子

また、センター開設を記念して同日、東京紀尾井町キャンパスで「21世紀型イノベーションとは」をテーマにした講演会を開催し、清成忠男イノベーションセンター顧問と土居征夫イノベーションセンター所長が「大学におけるイノベーションの役割と発展」「21世紀型イノベーションへの条件」と題した講演を行いました。

講演するイノベーションセンター土居所長

講演では、最初に清成忠男イノベーションセンター顧問が「大学におけるイノベーションの役割と発展」と題した講演を行いました。「チームによってイノベーションが生じ、ひとつのイノベーションが新たなイノベーションを生むという普及過程と、社会的ニーズに合致した教育・研究が重要です」などと述べられました。

続いて土居征夫イノベーションセンター所長が、「21世紀型イノベーションへの条件」と題した講演を行いました。イノベーションセンターが今後取り組む課題として、新しい地域福祉医療ネットワークの形成やグローバル人材の養成などを挙げ、本学でのイノベーション推進を表明しました。

学生や企業・大学関係者や政財官界などから約160人が来場し、会場の地下ホールは満員の盛況ぶりでした。社会的・経済的な新しい価値の創造を意味する「イノベーション」に対する関心の高さを物語っていました。

なお、イノベーションセンターでは学部間、大学間および産学官の連携を図り、政策提言へ向けて、中国産業物流研究会と医療福祉研究会を開催しています。これらの研究会での成果を本学の学生はもちろん、広く社会に還元することで社会貢献の一端を積極的に担っていきます。

①中国産業物流研究会：中国の広東省にある中山大学嶺南学院との共同研究を経た広東省政府への政策提言を行うことを視野に入れ、国際的な産学官の連携を図っています。2012年1月には授業形式での講演を共催し、中国の産業物流の現状と課題に関する研究会の成果を学生や教員に還元し、人材育成に積極的に取り組んでいます。

②医療福祉研究会：大学が地域、医療、福祉、介護と密接に連携することを通じて世代を超えた街づくりを行うことについて研究しています。そこでは産学官の連携に加え、城西大学と城西国際大学の両大学の薬学部、福祉総合学部、観光学部、看護学部などにおよぶ大学・学部横断的な連携を踏まえた取り組みを構想しています。大学での人材育成に加え、インターンシップや学生の就職の受け入れ先の創出や、それによる地域医療の充実化、地域共同体の活性化など、産学官および地域との連携について積極的に模索し、政策提言へ向けた活動を行っています。

政策提言による社会貢献

大学院センター開設記念講演会を開催

学校法人城西大学は、2011年11月25日に大学院センター開設記念講演会を開催しました。

大学院センターは、日本・アジアおよび世界でリーダーシップを発揮できる人材育成教育を目指し、城西大学（4研究科8専攻）と城西国際大学（5研究科9専攻）の大学院での教育・研究をより一層充実させるために開設されたものです。

講演する日本学術振興会理事長の安西祐一郎氏

講演に先立ち水田宗子理事長が「日本と世界の人材育成に学校法人城西大学として貢献できる教育プログラムを推進するため、7月設立のイノベーションセンターに続いてこの度大学院センターを開設しました。両大学院がお互いの力を出し合い、海外の大学とも協力しながら、国際社会でリーダーシップを発揮できる高度な能力を持った専門家をひとりでも多く育てていきたい」と挨拶しました。

まず最初に独立行政法人日本学術振興会理事長の安西祐一郎氏が「グローバル社会における大学院の役割」と題した講演を行いました。安西氏は、急速に進むグローバル社会の中で今後必要とされるのは、世界（グローバル）と地域（ローカル）の両方に通じ、専門家としてどこでも活躍できる人材であるとし、そのような人材を育成するための大学院の役割、特に私立大学の大学院と大学院生のあり方についてお話をされました。

講演する小野元之大学院センター所長

引き続き、小野元之大学院センター所長（前日本学術振興会理事長）が「21世紀における大学院のあり方」について講演しました。小野所長は、日本の再生のためにも特に大学院改革が必要であると提言し、そのためのあらたな外部資金獲得の重要性を指摘した上で、城西大学大学院センターの推進方針として「両大学の強みを活かした連携」「国際的な教育の質の保証」「海外大学との連携と留学生強化」等を表明しました。

講演会が行われた地下ホールには、文部科学省や企業・大学関係者、学生など約200名が来場し、熱心に講演を聞いていました。また講演会終了後に行われたレセプションでは、グローバル時代の大学院教育のあり方や今後の人材育成等に関しての積極的な意見交換や交流が行われました。

英語で学べる「英語マスターズプログラム」開講

城西国際大学大学院人文科学研究科国際アドミニストレーション専攻では、2011年4月から英語で授業を受け、英語で修士論文を作成し、英語で修士号が取れる専門・教養コース「英語マスターズプログラム」を開講しました。このプログラムは、キャリアや資格を意識した5つの専門研究科目「政策研究」「国際研究」「国際企業研究」「観光研究」「国際コミュニケーション研究」で構成されており、国際的な専門と教養を持ち、グローバルな世界でリーダーシップをとれる人材の育成をさらに促進させます。

英語マスターズプログラムの風景

政策提言による社会貢献

「災害とジェンダー」の勉強会を開催～シンポジウムで発表へ～

挨拶する堂本前千葉県知事

東日本大震災から1ヶ月後の2011年4月11日、「6. 11シンポ実行委員会作業チーム」と城西国際大学ジェンダー・女性学研究所の共催で「災害とジェンダー」の勉強会が紀尾井町キャンパスで開催されました。

この勉強会には、堂本暁子前千葉県知事をはじめとして東金病院副院長の天野恵子先生、「高齢社会をよくする女性の会」代表の樋口恵子先生、全国女性会館協議会館長の大野曜先生、城西国際大学教授の原ひろ子先生ら女性研究者が集まり、災害時に表面化するジェンダー問題について議論されました。この勉強会は、呼びかけ人の一人である堂本前知事が、女性の健康・権利と性差医療の観点から女性の身体問題に取り組む国際的組織であるWHJ(女性と健康ネットワーク)の代表を務めていることから、今回の震災被害に関して女性の視点からの支援を行うための具体策を検討するために実施されたものです。

勉強会では、防災における男女共同参画施策、被災地での女性活動家の視座から支援問題などが各研究者から報告され、日常におけるジェンダー格差が災害という非常時においては、その差による問題点がより顕著に露呈するということを確認できました。また、城西国際大学の学生からの質問も活発に挙がり、「災害とジェンダー」の課題を深く認識する契機となりました。

なお、この勉強会での議論はさらに深く検討された上で、6月11日に日本学術会議で開催されたシンポジウムにおいても発表されました。そして、2012年1月には、その後続勉強会として位置づけられる「男女共同参画と災害・復興に関する第1回勉強会」も同キャンパスで開かれるなど、さらに活発な政策提言活動につながっています。

第2回日中経済経営フォーラムJOSAI～「グローバル女性が社会を変える」～開催

講演する桜井氏

2012年2月15日、学校法人城西大学国際学術文化振興センター（JICPAS）の主催により、東京紀尾井町キャンパス3階301教室で「第2回日中経済経営フォーラムJOSAI」講演会が開催されました。

この講演会は、2012年5月から中国・大連で行われる「JOSAI グローバル女性人材育成プログラム（JEWEL）」と連携しており、「グローバル女性が社会を変える」というテーマで3名の講師にお話しいただきました。

講演会では、まず小野元之学校法人城西大学大学院センター所長が「女性の社会進出について」のテーマで、主に日本国内における現状問題の分析や、文部科学省時代に推進した政策の紹介等を交え、女性の社会進出のための提案が行われました。

次に、大羽りん氏（株式会社シー・コミュニケーションズ代表取締役）が「女性から見た中国ビジネス」をテーマに、中国語翻訳・通訳の会社経営の経験から、日本人女性が中国でどのような点に注意すべきかについて実例を織り交ぜて話されました。

そして最後に、衣装作家で城西国際大学メディア学部客員教授の桜井久美氏が「グローバル社会における女性の仕事」のテーマで講演しました。フランスオペラ座でのデザイン修業などの経験をもとに国籍も文化も違う環境下で働くことの難しさと、様々な文化の価値観を得られるという利点について説明されました。

講演会には、企業経営者や人事担当者、役所など各界で活躍する女性が多く来場され、このテーマに対する関心の高さを物語っていました。

政策提言による社会貢献

日本のコンテンツ産業に関する特別講義を実施

講演するスタジオジブリ野中晋輔氏

城西国際大学の創立20周年記念として、メディア学部では日本のコンテンツ産業への提言を行う2つの特別講義を2011年9月～10月に紀尾井町キャンパスにて行いました。

第1弾となる9月24日の講義では、キヤノンマーケティングジャパン株式会社の鈴木知規氏、株式会社MPDの高野幸生氏、コダック株式会社の亀井雅彦氏、株式会社サンライズの井上幸一氏らが、オンデマンド出版のプロジェクト「COD project」によって復刻発刊された『機動戦士ガンダム大事典（一年戦争編）』や現在進行中のプロジェクトを通して、オンデマンドテクノロジーと日本の文化として確立した日本のアニメーションの歩みと将来像を語りました。

また、第2弾として10月7日に「『ジブリを創った男・徳間康快』～活字を土台にメディアミックスの先駆者～」を開催しました。講義では、フリーライターの室井實氏と、株式会社スタジオジブリの野中晋輔氏のお二人によって、ジブリのアニメーションが日本のコンテンツ産業だけでなく世界的な価値になっていった経緯などが語られました。

受講した学生からは「オンデマンド出版や流通の最新情報を聞くことができ、コンテンツとビジネスの関係の理解が深まった」「この講義で学んだことを、今後の自分の作品作りに活かしたい」等の声が聞かれました。

なお、この講義は「COD project」のこれまでの活動にご尽力いただいた徳間書店・中尾玲一氏と非常勤講師・小牧雅伸氏のご協力で実施することができました。

講義中の井上幸一氏と小牧雅伸先生

メディア学部では「情報」「映像」「デザイン」「サウンド」の4つのメディアを専門的・実践的に学び、さまざまなメディアをクロスさせながら「ビジネス・コミュニケーション」の実務能力の養成をめざし、メディア業界の最先端の企業や団体等によるさまざまな特別講義を行なっています。

坂田氏の特別講義の様子

そのひとつとして、「エンタテイメント・マーケティング」の授業で、電子書籍ストア「BookLive!」を運営されている株式会社BookLiveの坂田泰則さん、吉田翔平さんによる特別講義が2012年1月19日に行われました。「BookLive!」は、従来の紙で作られた本の形態とは異なり、スマートフォンやiPadなどのデジタル・デバイスを用いて本を読むことが出来る電子書籍ストアです。大きな変革の時期を迎えている出版業界の中でお仕事をされている坂田泰則さんから、出版業界の仕組みや電子書籍の今後の可能性などをわかりやすく解説していただきました。

創立100周年の日活株式会社とメディア学部との産学連携

日活調布撮影所での実習風景

2010年6月に学校法人城西大学と日活株式会社が提携した連携協力に関する包括協定にもとづき、城西国際大学メディア学部内に2011年4月からスタートしたメディア学部映像芸術コースでは、日進月歩のデジタルメディアを活かして次世代の映像文化を創造する人材の育成をめざして、東京紀尾井町キャンパス、日活調布撮影所において新しい映像教育を展開しています。

これまで37年間にわたり、映像業界に数多くの人材を輩出してきた日活芸術学院の全面協力のもと、映画・芸能業界の第一線で活躍するプロフェッショナルを講師で招き、最先端のデジタルテクノロジーを取り入れながら、映像産業の最前線と大学教育を結びつけ、本学独自の高度で専門的な映像教育を行なっています。そして2012年秋より、実際に調布の映画撮影所のスタジオを使って本格的な実践教育がスタートします。

日活は、1912年に「日本活動写真株式会社」として設立され、数々の名作、名監督を輩出してきた日本で最も歴史のある映画製作会社です。本学と日活は「日活100周年・城西国際大学20周年記念日活寄付講座」の開設に向けて協議を進めています。

本学は、日本の映画文化の一端を担ってきた歴史ある日活と連携しながら、総合芸術である「映画」に関する様々な専門的知識、映像メディアに関する幅広い教養を伝え、将来の日本のコンテンツ産業を担い、グローバルに活躍できるメディア人材育成に今後とも取り組んでいきます。

JTB法人東京との連携で観光人材育成プログラムを推進

旅行の滞在プランニングを学習する参加者たち

学校法人城西大学では、2011年3月に株式会社JTB法人東京と連携協力に関する包括協定を締結以来、城西国際大学観光学部においてさまざまな取り組みを積極的に展開してきました。初年度となる2011年度は、JTBグループ講師による講義、沖縄・ハワイへの短期インターンシップ、旅行業界を志望する学生対象の就職相談会、第一線で活躍しているJTB講師を招いた「ホスピタリティコミュニケーション」を学ぶ「ホスピタリティ講座」、宮城県石巻市・南三陸町における東日本大震災復興支援調査およびボランティア活動、プロ野球選手会主催の東北復興支援イベントなど、観光人材の育成に向けて多彩なプログラムを実施しました。

その中でも、短期インターンシップに関しては、2月に沖縄、3月にはハワイへの研修を実施し、日常では体験できないJTB主催の大型イベントの運営、旅行会社の実際の業務を現地で学びました。

また高校3年生を対象にした宿泊型オープンキャンパス「ウェルネスツアー」では、東京・天王洲のJTB本社を見学し、夜にはJTBグループの現役社員も加って、JTBグループのハワイ観光資源データを活用した「ホノルル4泊6日の滞在プラン」をテーマに、旅プランニングの策定をグループ単位で行いました。

次年度以降も、将来の観光人材育成を目的とした同社との総合的な連携を強化・継続していきます。

エイベックスとダンス教育で提携し、エンターテイメント人材を育成

発表会でダンスを披露

学校法人城西大学とエイベックス・グループ・ホールディングス株式会社傘下のエイベックス・プランニング＆デベロップメント株式会社は、2011年1月、エンターテインメント分野における人材育成に関する包括的な連携協力協定を結びました。これを受けた具体的な取り組みとして、城西国際大学メディア学部映像芸術コースでは、2011年4月からエイベックスのダンス教育プログラム「エイベックス・ダンスマスター」を導入しています。芸能フィールドを選択する4クラスの学生達が、ダンス、アクティング、声優、アナウンスなどさまざまな身体表現に関する科目を履修しています。

2012年度から実施される新学習指導要領では、中学校保健体育において武道とダンスが必修化されます。ダンスを通じてイメージをとらえて自己表現する楽しさや喜びを体験し、仲間とのコミュニケーションを豊かにすることができます。

2012年2月18日、19日に開催された「メディア学部芸能フィールド発表会」では、4クラスのこの1年間の成果発表が行われ、それぞれ学んできた科目を披露しました。学生達はこの1年間で急成長を遂げ、発表会に出席されたエイベックス・プランニング＆デベロップメントの方からも「たった1年間でこれほど成長するとは正直なところ驚いているし大変素晴らしい。多くの学生は中学校の体育の授業で十分に指導できるレベルになっている。」との評をいただきました。学生達も、自らの成長や素晴らしいチームワークに対して、自信と高い満足度を得ています。

日本IBMとの共催による「幕張IT講座」を実施

講座の様子

城西国際大学メディア学部および情報科学研究センターでは、日本アイ・ビー・エム株式会社との共催による一般向け連続公開講座「幕張IT講座2011」を2011年10月に幕張キャンパスで開催しました。この講座は、学生だけでなく一般の方も対象にITに関する知識とスキルを得る機会となることを目的に、産学連携による地域社会への貢献活動として毎年行なっているもので、年ごとに内容を充実させて今年度で第6期目を迎えました。講師には、日本IBMでご活躍中の第一線の専門家の先生方をお迎えし、今年度は以下の4つのテーマについてお話いただきました。

「体感するエンジニアリング」

レゴブロックで組み立てた自動車ロボットを簡単なプログラミングで走らせるキットを使って、さまざまな走行課題をクリアすることによりプログラミングの基本と面白さを学びました。

「実世界とITを結び付ける」

「個体認識」（RFID）を題材にその仕組みや活用例を解説し、最新技術によるユビキタス社会での新しいソリューションを探りました。

「ビジネスを理解する」

ビジネスの「データ」に着目し，企業活動における分析と最適化の実践的な手法を解説しました。

「消費者がもたらすITの変化」

クラウドなどの最新のIT 技術の流れを、消費者・利用者の ITへの関わりの変化を捉えながら解説しました。

ハンガリーとの交流

ハンガリーより水田理事長に文化勲章授与

文化勲章を受ける水田理事長

2011年5月18日ハンガリー大使館において、ボハール・エルヌーハンガリー共和国特命全権大使より、本学水田宗子理事長へ、ハンガリー共和国"Pro Cultura Hungarica"が、授与されました。これは、ハンガリー共和国の文化勲章で、これまで社団法人日本経済団体連合会会長米倉弘昌氏、指揮者小林研一郎氏などが受賞しています。

ハンガリー大使館より、本学教職員、ハンガリーからの留学生・ハンガリーで学んだ学生等約45名が招待を受け、理事長への文化勲章授与をお祝いしました。

ボハール大使より、この授与は、学校法人城西大学が、ハンガリーと日本の教育交流ならびに文化交流に積極的に取り組んできたこと、また、ショーヨム・ラースロー前大統領の来学を記念して「大統領来学記念水田宗子ハンガリー奨学金」を設立し、両国の学生交流ならびに人材育成に寄与してきたことが評価されてのことであると説明がなされました。

水田理事長より、「本日私が文化勲章をいただきましたが、これは学校法人城西大学へ頂戴したものと思っております。これからも両国の学生の交流と育成に力を尽くしてまいります。」とのお礼の言葉が述べられました。

城西国際大学大学院生の井出麻木さんはお祝いのメッセージの中で、ブダペスト商科大学で学ぶ機会を得られたのもこの交流のおかげであり、ハンガリー語だけでなく多くのものを学ぶことができたと述べました。

その後、ハンガリー大使館より、受勲のお祝として、和田さやかさんによるピアノ演奏、リスト「春の夢」がプレゼントされました。

引き続き、大使館の心づくしの美味しいハンガリー料理がふるまわれ、会食のあいだ学生たちと歓談していた水田理事長、ボハール大使ともに学生たちの言語の上達ぶりを笑顔でたたえていました。会の最後には、サプライズとして、学生たちが全員で、ハンガリーのお祝の歌をハンガリー語で歌って、参加したみなさんをあたたかい気持ちにさせてくれました。

セント・イシュトバーン大学より名誉博士号授与

セント・イシュトバーン大学より名誉博士号授与

2011年6月17日セント・イシュトバーン大学卒業式において、水田宗子理事長へ名誉博士号（経営学）がショルティ学長より授与されました。セント・イシュトバーン大学とは、学生交流、教員交流、観光学部研修とさまざまな交流が実施されています。

セレモニーにおいて、ヴィッラーニ学部長から、水田理事長への授与にあたっての事由説明として、人材育成におけるハンガリーと日本の友好交流の促進に関する貢献、研究者としての業績、大学経営者としての業績などが評価されての授与であることが述べられました。

水田理事長は、授与に対しての感謝、これまでの城西大学のハンガリーとの交流史に触れ、今後、さらに友好に力を尽くし、人材育成につとめていきたいと話しました。また、最後に今回の震災に際して、ハンガリーの皆さんから示された支援の気持ちに深く感謝しますとお礼を伝えました。本学からは、名誉博士号授与記念として日本人形を贈呈しました。

前日に開かれた名誉博士号授与記念夕食会においては、ヴィッラーニ学部長、グート副学部長、ヴァシャ教授らが夫人とともに出迎えてくれました。今回、水田理事長とともに名誉博士号を授与されたチェコスロバキア・南ボヘミア大学の学長一行とともにセント・イシュトバーン大学学生によるハンガリアン・ダンスの歓迎を受け、セント・イシュトバーン大学の美しい庭園を鑑賞しながら、和やかな交流のひとときを楽しみました。

ハンガリーとの交流

カーロリ・ガシュパール・改革派大学、コルヴィヌス大学と学術交流協定を締結

カーロリ・ガシュパール大学との調印

2011年6月15日、水田宗子理事長以下７名の訪問団がブダペストにあるカーロリ・ガーシュパール・改革派大学を訪問し、学術交流協定が締結されました。水田理事長は、「ハンガリーとの幅広い交流は、本学にとっても大きな喜びです。日本語だけでなく日本文化や伝統を学ぶ教育をしていますので、今後多くの学生が、本学にきてくれるよう期待しています」と述べました。

カーロリ・ガーシュパール・改革派大学は1855年に設立されたブダペスト改革派神学アカデミーが前身となり、93年に設立された伝統ある大学です。既に同学出身の学生が国費留学生として城西国際大学人文科学研究科博士課程に在籍しています。また、本年9月より、協定後初めて水田ハンガリー人材育成奨学生に選ばれた学生1名をメディア学部に迎える予定です。

また、6月15日にはブダペストの中心地にあるコルヴィヌス大学を訪問し、ハンガリーで6校目となる学術交流協定が締結されました。タマス・メーサーロシュ学長は、「協定を大変うれしく思っており、学生を受け入れてくださることに深く感謝をしています。本学は、英語での教育も強化していますので、ぜひ、本学へも学生がいらしてくださるよう願っています」と挨拶されました。

コルヴィヌス大学は1920年に設立されたハンガリー大学経済学部を前身とする名門大学で、約17000名の学生が学んでいます。同大学からは大統領訪問記念奨学生が2名選出されており、9月より城西大学経営学部、城西国際大学観光学部にてそれぞれ1年間受け入れています。

ハンガリー留学生と地域との交流

地元の方々とハンガリー舞踏を楽しむ留学生

伝統衣装に身を包んだハンガリーの留学生

2011年10月16日、観光学部・安房キャンパスにて〝伝えようウェルネス　ひろげよう思いやり〟をテーマに「第6回ウェルネス交流DAY」を開催しました。ウェルネス交流DAYは、地元鴨川の方々との交流を目的に毎年行なっている学部祭で、今年は東日本大震災復興支援、鴨川・南房総地域への観光復興支援も目的のひとつとして開催したものです。

当日は、JALパイロットの講演会や紙飛行機大会、日本語・英語・中国語・韓国語・スペイン語・ハンガリー語によるスピーチコンテスト、JTBとのコラボレーションによる東日本大震災の被災地でのボランティア活動報告や現地調査を経ての鴨川への提言をはじめ、フラダンスやハンガリー舞踊、理科の実験教室、学生による各種活動発表・模擬店、国内・海外研修発表、企業インターンシップ発表など、国際性に富む観光学部ならではの多彩な催しが実施され、多くの来場者で賑わいました。また、地元に密着した企画として、亀田クリニックによる無料歯科検診や長狭高校の生徒さんの書道・写真・絵画作品展示等も行われました。

世界日本語教育研究大会で水田理事長が基調講演

2011年8月20日、21日の日程で天津外国語大学にて開催された第10回世界日本語教育研究大会において、水田宗子理事長が基調講演を行いました。

大会は「異文化コミュニケーションのための日本語教育」をテーマに、世界各国からこれまでで最高の2030人の参加がありました。文部科学大臣中川正春氏をはじめ、天津の教育委員会、日本大使館公使、平田オリザ氏など各界から来賓が招かれ、日本語教育に貢献をしてきた学会にとって、今後のさらなる発展に向けた意義深い大会となりました。

水田理事長は「現代女性詩における「わたし」という表現主体」のタイトルで講演を行いました。作品は読まれ、愛されても、批評や作品分析の対象として取り上げられる事が少なかったことを指摘。林芙美子、左川ちか、永瀬清子など戦前の詩人と、石垣りん、茨木のり子、白石かずこ、吉原幸子などの戦後世代の詩人の作品を取り上げて、「わたし」が個人的な「わたし」の思想や心象風景を表現するだけではなく、直接的な詩人の生の声を超えて、複雑な世界と「女性という自己」の関係を虚構の作品世界に展開するための多様な役割を果たす、表現の仕掛けである事を論じました。講演終了後、参加者からは、非常に新鮮で興味深かった、これから自分でさらに学んでいきたいとの声が聞かれました。

理事長基調講演

学会開始にあたり来賓一同で記念撮影

日中連携大学院の集中講義、懇親会

日中連携大学院第2期生5名が2011年8月23日から9月2日に来日して、東金キャンパス、紀尾井町キャンパスにて集中講義を受講しました。日本語学、日本語教育を専攻する学生たちにとっては、最新の日本の研究状況や、日本語学についての柔軟で幅広い視点を学ぶ良い機会となったようです。東京大学名誉教授・秋田県立近代美術館館長の河野元昭先生の日本美術史の集中講義では、東京国立博物館の特別展「空海と密教美術」を先生の解説におおいに感銘を受けながら見学しました。

日中連携大学院懇親会

また、8月30日には河野元昭客員教授、プリンストン大学名誉教授でもある清水義明客員教授、藤井一二客員教授や、ハンガリーから姉妹校であるセント・イシュトバーン大学のヴァシャ教授らなど関係者50名近くが出席し、懇親会が行われました。「中国における今後の日本、そして日本語教育の重要性はますます高まっており、連携大学院で学ばれる皆さんは、是非日本の文化についても知り、日中の懸け橋となる人材になっていただきたいと強く願っています。」と挨拶しました。

学生たちは御礼とともに「日本語学について、自分が博士論文のテーマにしようと思っていることだけでなく、広く多くのことを関連づけて考えられるようになった」「自分の研究テーマである日本語の研究と、美術に代表される日本文化は切り離せないことがよく分かった」などと集中講義の感想を述べていました。

北京事務所の開設

学校法人城西大学は、大連の事務所に次ぐ中国内２番目の教育交流拠点・窓口として、独立行政法人日本学術振興会北京研究連絡センター内に北京事務所を開設しました。北京は中国における科学技術、高等教育活動の中心であり、教育研究の交流拠点および窓口として北京事務所を活用していきます。本学は国際教育を通じたグローバル人材の育成に特に力を入れており、世界各地の87大学と各種の国際教育プログラムを推進していますが、中国においても現在36大学と学術提携をしており、さまざまな共同研究、共同大学院の設置、交換留学等を実施しています。

今後はこの北京事務所をベースに中国各地の大学、研究機関、団体及び企業との連携を図り、日中におけるさらなる学術交流の促進につとめていきます。

（北京事務所の主な活動内容）

◆中国人学生への相談窓口
◆協定大学への、中国公費派遣留学生の受け入れ通知
◆中国各地区で実施する留学説明会支援
◆中国国内企業への就職斡旋
◆中国国内で活躍中の本学卒業生の把握
◆中国各地の本学同窓会の拡大及び活動支援
◆中国人研究者招聘支援

北京事務所内風景

北京事務所が入るビル

城西大連・東北学友会、天津学友会 ～広がる交流の輪～

2011年5月29日、訪問先の大連において第１回城西大連・東北学友会懇親会を開催しました。城西大学・城西国際大学で学んだ留学生はもちろん、他にも"水田三喜男記念"水田宗子奨学金等の授与を受けた奨学生たち、ＪＭＢＡの卒業生たち、日中連携大学院の先生・学生たちが、大連在住の卒業生だけでなく遠く瀋陽からもかけつけてくれ、出席者は60名を超え大変にぎやかなパーティとなりました。懇親会の冒頭には、30年にもおよぶ大連との教育交流に尽力いただいた本学顧問の村井隆氏より挨拶がありました。このように両国の教育を受けた学生がすばらしく成長し活躍している姿を見られて、感無量であると言葉を詰まらせながら喜びをあふれさせました。

学友会懇親会の様子

また、2011年8月に天津外国語大学にて開催された第10回世界日本語教育研究大会に参加するために天津を訪問していた城西大学・城西国際大学一行は、本学で学んで巣立っていった学生たちと懇親会を持ち、天津学友会を発足させました。8月20日、天津外国語大学近くの茶店で、理事長をはじめとする両大学の教員、そしてすでに中国において、大学教員・職員や保険会社、ホテルなどで活躍している卒業生たちが集まり、旧交をあたため、現在どのような仕事に携わっているかなどの報告をし、中国茶とともに楽しいひとときを過ごしました。

最後に、天津学友会のバッジを配布し、来年から年に一度は集まれるようにと、再会を約して散会となりました。

広がる国際交流

台湾政府主催　第1回台日学長フォーラムで講演

セッションで講演する水田理事長

水田宗子理事長をはじめとする学校法人城西大学代表団は、2011年12月19日に台湾の淡江大学で開催された「第1回台日学長フォーラム」に出席し、セッション1において水田理事長が講演しました。

本フォーラムは、台湾と日本の大学の国際連携強化を図ることにより、両国の大学生に新しい学びの機会を提供することを目的として台湾教育部国際文教局の主催で開催されたものです。第1回となった今回は、台湾からは会場となった淡江大学をはじめ、雲林科技大学や世新大学等約60もの国立・私立大学の関係者や教育部関係者等が参加し、日本からは本学や同志社大学、亜細亜大学、桜美林大学等9大学と日本国際教育交流協議会、日本私立大学協会関係者等が特別招待を受け出席しました。

フォーラムでは、「大学の発展と学校経営」「国際連携と留学生の受け入れ」「大学の発展と産学連携」の3つのテーマに沿ってセッションが行われ、本学はセッション1「大学の発展と学校経営」の中で、水田理事長が「国際人材の育成と国際的連携教育、研究の重要性」というタイトルで講演を行いました。

講演では、グローバル化が急速に進む中、今後は国際的な視野を持った人材育成が必須であり、そのためにも日本と台湾がさらに連携して、国際的なリーダーシップがとれ信頼される人格の形成と、国際的な教養と異文化理解、コミュニケーション力の育成に努めることの重要性を述べました。

マレーシア観光大臣来学、トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学と学術交流協定へ

会見する水田理事長とマレーシア観光大臣

2011年11月25日、マレーシア観光大臣ン・イェン・イェン氏が東京紀尾井町キャンパスに来学し、水田理事長と会見しました。会見の中で、水田理事長は「本学は観光学部や薬学部を有しており、この方面を中心に今後マレーシアの大学と交流を深めていきたい」と述べ、ン・イェン・イェン大臣も「観光産業強化のためにも人材育成が重要であり、ぜひ日本の大学との交流を深めたい」と述べました。

会見後、大臣は城西大学経済学部に留学中のマレーシアからの学生および城西国際大学観光学部に留学している中国、ハンガリーからの留学生代表計10名と交流の場を持ちました。

また、本学はかねてよりマレーシアの大学交流強化をマレーシア大使館、マレーシア観光局とも検討を重ねてきましたが、大臣よりご紹介をいただいたことがきっかけとなり、2011年12月12日、マレーシアのトゥンク・アブドゥル・ラーマン大学（Tunku Abdul Rahman University）を訪問し、学術交流協定を締結しました。

同大学は、1969年からマレーシア華人協会により経営されていたカレッジを母体として、国家教育力強化の観点から教育大臣の要請により2002年に総合大学化した華僑系私立大学です。

また、今回の訪問では同大学以外にも最大の国立大学であるマラ工科大学や、日本との関係が深いマレーシア日本国際工科院も訪問し、高等教育の英語化が進んでいる同国ならではの本学との今後の交流・教育機会の拡大についての話し合いが持たれました。

本学は、マレーシアでは同大以外にもマネジメント＆サイエンス大学と学術交流協定を結んでいますが、今後のマレーシアの大学との交流がより活発に進むことが期待されます。

広がる国際交流

韓国・東西大学との共同映画製作プロジェクトを実施

映画撮影の一コマ

撮影終了後の集合写真

学校法人城西大学は、学術交流協定を結んでいる韓国の東西大学と共同で学生による映画製作プロジェクトを実施し、このほど映画「冬の花火」が完成しました。

このプロジェクトは、2010年9月に東西大学校より水田宗子理事長が名誉経営学博士号を授与されたことを記念して、両大学の交流促進ならびに日韓共同研究の新しい可能性を拓くため、学校法人城西大学から両大学での共同映画制作プログラム製作費が贈呈されたことがきっかけとなって実現したものです。

プロジェクトでは、城西国際大学メディア学部映像芸術コースの学生と東西大学映画芸術学部の学生達が、2国間の文化や歴史を踏まえつつ、「New Generation of Asia」をテーマに同じアジアの若い世代の仲間としてコラボレーションして映画の制作準備が始まりました。その後2011年11月に、東西大学の林権澤映画芸術学部より李鍾讃先生が来日し、城西大学・城西国際大学とその周辺で韓国に縁のある土地を訪問され、それを元に東西大学の4年生、KIM JU HYUNさんのシナリオ原案が作成されました。これを受け、東京と釜山を結んだオンラインミーティングを通じて両校の学生が打ち合わせを重ね、2012年1月上旬に城西大学キャンパスやその付近の高麗川、高麗神社などで撮影が行われました。

4日間というタイトなスケジュールの撮影でしたが、両大学の約30名の学生が、演出・撮影・照明・録音・美術・制作・通訳などの各パートに分かれて、工夫を凝らして現場に臨み、互いの意見を交換しながら制作を進めていきました。城西国際大学の学生は、メディア学部に2011年より新設された「映像芸術コース」の1年生が中心だったため、初めての映画撮影に戸惑いながらも、言葉や歴史の壁を乗り越え、映画制作を通じて互いの文化についての理解を深めることができ、真の意味での深い国際交流が実現しました。

撮影された作品は、監督のKIM JU HYUNさんを中心に編集・仕上げの作業が行われ、1月16日には紀尾井町キャンパスにて、プロジェクトの閉講式を兼ねてラフ試写会を行いました。映画は4月中旬に完成し、今後の大学の行事や外部での上映などが予定されています。

さらに充実する国際教育交流ネットワーク

2011年度、学校法人城西大学は、海外の12大学と新たに学術交流協定を締結しました。今後、これらの大学との教育及び研究の諸分野における学術交流や、教員、研究者および学生の交流が活発に行われることが期待されます。

なお、本学の海外の学術交流協定校は87校になり、さらに国際教育交流のネットワークが充実しました。

〈2011年度の学術交流協定締結校一覧〉

- 6月15日　コルヴィヌス大学（ハンガリー）
  カーロリ・ガシュパール改革派大学（ハンガリー）
- 7月21日　エセックス大学（イギリス）
- 9月12日　ポーランド日本情報工科大学（ポーランド）
- 10月11日　UCLA（アメリカ）
- 10月22日　魯迅美術学院美術館（中国）
- 10月24日　藩陽師範大学（中国）
  遼寧大学（中国）
- 12月12日　トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学（マレーシア）
- 12月20日　逢甲大学（台湾）
- 12月29日　中国医科大学（中国）
- 1月19日　ゼンメルヴァイス大学（ハンガリー）

コルヴィヌス大学での調印後の記念写真

城西国際大学創立20周年記念「絵本コンテスト」授与式開催

2012年2月11日、城西国際大学創立20周年記念　空飛ぶクジラ大賞全国高等学校「絵本コンテスト」第1回授与式が、東京紀尾井町キャンパスにて行われました。

本コンテストは、全国の高校生を対象に絵本のあらたな可能性を拓くことを目的に実施されたものです。絵本は、子どものみならず福祉総合学部が対象とする高齢者や障がいをもった子ども・大人など様々な人々に力や癒しを与えるものです。本コンテストでは、国際大学にふさわしくインターナショナル部門を設けて海外にも作品応募を呼びかけ、中国や韓国からも多数作品が集まりました。

第1回目となる今回の授与式には、全国から集まった各賞受賞者やその家族、審査員の一人をつとめられた日本サッカー協会の川淵三郎名誉会長と学内審査員等が出席して盛大に行われました。

磯部福祉総合学部長より優秀賞、奨励賞、フリー部門賞、努力賞、アイデア賞の各賞受賞者に対し、賞状が授与されました。そして、栄えある空飛ぶクジラ大賞を受賞した櫻井毬友さん（群馬県共愛学園高等学校）に水田理事長より賞状と記念品、楯が授与されました。

審査員を代表して、川淵三郎名誉会長は「従来の絵本の枠を超え、新たな世界を作っていく可能性を強く感じた」と講評し、審査員で詩人・絵本作家のアーサー・ビナード氏からは、大賞受賞作品に対し「想像以上に優れた作品で、二人の繊細な心の動きを実にうまく描写している。作者の今後の絵本作家としての成長が大いに楽しみだ」とのコメントがありました。

理事長より表彰状を受ける、大賞受賞者の櫻井毬友さん

審査員の日本サッカー協会川淵名誉会長

インターナショナル子どもクリスマスパーティを開催

城西国際大学福祉総合学部子ども福祉コースと城西国際大学同窓会グローバルユースは、2011年12月21日に地域の子供達と交流する「インターナショナル子どもクリスマスパーティ」を共同で開催しました。今年で4回目の開催となった今年は、東金市立東金幼稚園の子どもたち41名と先生方、PTAの方をお迎えしました。

パーティでは、まず屋外の「キッズシアター」にて子ども福祉コースの3年生によるサンタ・ショーを上演しました。その後、中国からの留学生による中国の歌遊びや「十二支のおはなし」劇を上演したり、中国語のあいさつを子どもたちにやさしく教えたりとインターナショナルな雰囲気の中でクリスマスをいっしょに楽しみました。また子ども福祉コースの3年生が、大きな手作り絵本を使っての読み聞かせ「おっちょこちょいサンタ」を披露し、子どもたちはみんな興味深そうにおにいさん、おねえさんたちからの“クリスマスプレゼント”に見入っていました。

なお、このパーティの様子は翌22日に千葉テレビの朝の番組“ハピネ”でも放映されました。

楽しそうな子供たち

大きな手作り絵本で読み聞かせ

子どもたちとともに（次世代育成）

サマーフェスタで多彩な子供向けイベントを実施

城西国際大学観光学部では、2011年7月下旬から8月上旬にかけて安房キャンパスにて「サマーフェスタ」を開催し、日頃ご支援・ご協力いただいている地元の皆様や鴨川を訪れる観光客の皆様に、夏のひと時を楽しんでいただくための多彩なイベントを実施しました。

フラダンスや映画鑑賞会、コンサートなどに加え、今年は地元の親子約100名が参加してペットボトルを使った水ロケット大会を開催しました。あいにくの向かい風の中、地元の小学生が130メートルを飛ばして見事1位となりました。

小学生向けサッカー教室

そして、小学生高学年を対象に、元清水エスパルス監督のゼムノヴィッチ・ズドラヴコ氏の指導によるサッカー教室も開催し、参加した子供達はサッカーの技術習得とともにサッカーの楽しさ、面白さをあらためて体験しました。

硬式野球部が東金市内の球児を指導

2012年2月4日、城西国際大学硬式野球部と浅井病院野球部および東金商工会議所の三者共催による「東金市少年野球教室」が本学水田記念球場で行われ、東金市内の少年野球6チームの球児計約70名が参加しました。

当日は快晴に恵まれ、2時間強にわたってピッチングやバッティング、ランニング、捕球などの基本動作を繰り返し練習しました。本学野球部員も、子供たちにお手本を見せたり、ひとりひとりにアドバイスをしたりと、熱心に指導を行いました。本学硬式野球部は昨年、千葉県大学野球1部秋季リーグ戦で優勝したこともあって、参加した球児からも本学野球部員のしなやかな動きに熱い視線が送られました。

本学野球部員による実技指導

佐藤清監督も「野球を通じて東金市民の皆さんとの絆をより深めていきたい」とあいさつし、熱のこもった実技指導にあたりました。

第52回文部科学省科学技術週間「わくわく理科実験教室」開催

文部科学省科学技術週間を迎えた2011年5月28日に城西大学理学部化学科主催の第8回目の「わくわく理科実験教室」を開催しました。これは近隣の坂戸・鶴ヶ島市等の小学校の3～6年生を対象にした理科実験教室で、70名の児童の皆さんが保護者と一緒に参加しました。

見て楽しんでもらう実験では、錯覚や一見不合理に見える実験として一円玉大の穴を500円玉が通り抜ける実験、丸底フラスコ内で水の色が変わりながら噴水を起こす実験などを行いました。また、体験できる理科実験では、いくつかのグループに分かれて、レモン汁と練り歯磨きで硬貨をピカピカに磨いたり、液体窒素を使った実験などを体験しました。子どもたちは目の前で行われる、日頃なかなか見ることのできない実験の数々に歓声をあげ、身を乗り出して食い入るように見ていました。

実験の様子

本学は今後もこのような実験教室を通じて理科に興味を持つ子どもが増えることを期待し、理科好きな子供たちの育成の一助となるよう取り組んでいきます。

子どもたちとともに（次世代育成）

小学校持久走大会を駅伝部がサポート

駅伝部員が子供たちに伴走

2011年11月25日、城西大学男子駅伝部が埼玉県比企郡小川町立八和田小学校を訪問し、持久走大会のサポートを行いました。

走るコースは学年ごとに異なり、駅伝部員が各学年の先頭の児童の横を、一人ずつ伴走する形でサポートしました。稲刈りが終わった長閑な田園地帯のコースで、駅伝部員に先頭をリードしてもらい、各学年とも生徒が皆一生懸命に走っている姿が印象的でした。

閉会式の表彰式では、駅伝部学生より賞品が渡され、子供たちも大喜びでした。終了後は子供たちが列を作って駅伝部員と握手をし、「一緒に走ってくれてありがとう」「ぜひ来年も来てね」とお礼を言っていました。

全般的な小学校教員の削減と高齢化も進む中、学校行事を行う上でＰＴＡ等や近隣の住人の協力が大きな力となっており、今回の持久走大会でも駅伝部員のサポートが地域への貢献につながりました。

城西健康市民大学講座 ～小・中・高生を対象に陸上教室を実施～

小学生への指導風景

城西健康市民大学講座は、2011年11月19日に近隣の小学生・中学生・高校生を対象に陸上教室を開催しました。本講座はスポーツ活動を通しての教育実践・地域社会貢献の一環として毎年行われているもので、今年は陸上競技部、男女駅伝部の指導者スタッフが中心となって実施しました。当日はあいにくの天候で屋内での実施になりましたが、午前の小学生の部、午後の中学、高校生の部あわせて約150名の地域の未来のアスリートたちが参加しました。

午前の部では、男子駅伝部の櫛部監督が走り方を指導し、障害物競走・リレーなどを楽しみながら陸上の基本を学びました。

午後の部では、各学校で本格的に陸上競技に取り組む生徒たちに、素早い脚のさばき方や、速い走りにつなげるための動きづくりを行いました。トレーニング終了後も多くの生徒が居残って陸上競技部・駅伝部のスタッフに熱心に質問をしてアドバイスを受ける場面も見られました。

参加した生徒たちは身近な世代の選手と一緒にトレーニングすることで刺激を受けた様子で、学生にとっても、子どもたちに指導することを通じて自分自身の陸上に対する考えをさらに深める機会となりました。

子どもたちに薬物・喫煙・飲酒の危険性を教育

小学校で講演を行うBel's

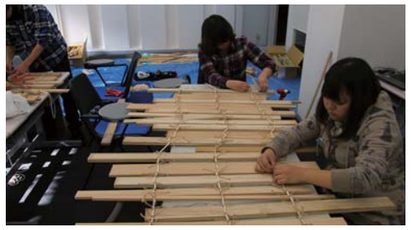
城西大学薬学部生が多数所属するサークル「Bel's（ビーアイズ）：Be Innovative and Sympathy」は、毎年地元の坂戸市立城山小学校を訪れて、薬学の知識を生かして子どもたちに薬物や喫煙、飲酒の危険性とについて講演を行っています。2011年度は、のべ3回・210人の小学生たちに講演を行いました。

講演は、小学６年生を対象として授業時間中に開催しており、喫煙や飲酒などの害や、健康の大切さをスライドでわかりやすく説明し、その後に、見たこと・感じたことをクイズやスモールグループディスカッションを行うことで、子供たちが"自ら考えること"によってその危険性を再確認・再認識してもらっています。またその後の質疑応答では小学生ならではの意見や質問も多く、サークルメンバーもそこから多くのことを学び、学生と子どもたち相互にとって有意義な活動となっています。

文化・出版を通しての貢献（次世代育成・グローバル教育）

室内楽コンサートの衣装と舞台美術を担当

学生が制作途中の衣装


インスタレーションの制作風景

コンサートの一場面

2012年1月19日に行われたJTアートホール室内楽シリーズ「中嶋彰子セレクションⅡ～北欧のロマンス」コンサートにおいて、城西国際大学メディア学部の学生が衣裳・インスタレーション（舞台美術）の制作にあたりました。

これは、空間映像や舞台・イベントの衣装をデザイン、製作、研究して表現することを目的とした衣装作家・桜井久美先生の「表現衣装プロジェクト」の授業の一環としてメディア学部映像芸術コース１年生の１１名が同コンサートに参画し、先生の監修のもとで衣装とインスタレーションの考案・制作を担当したものです。

オペラ歌手・中嶋彰子氏による北欧音楽に、学生が製作した衣装・インタスタレーション作品が華を添えました。今回の作品テーマは『リサイクル』です。学生達は、3月の東日本大震災をきっかけに節電やエコロジーについてあらためて深く考える機会を持ち、歌の内容からのテーマ"北欧の自然と光"をもとに、事前に自然保護の大切さやエコ問題、リサイクルなどについて研究し、作品製作に臨みました。衣装素材は使用済み服などを使用し、インスタレーションは再利用可能な木材の組み合わせとしました。

学生たちが心を込めて創作した北欧の自然を表現した柔らかい色使いの作品達は、中嶋さんのすばらしい音楽とうまく調和し、来場した観客にも大きな感動を伝えていました。

メディア学部／山武郡市共同制作作品が千葉県メディアコンクールで優秀賞受賞

文化記録プロジェクトの皆さん

平成23年度千葉県メディアコンクールにおいて、城西国際大学メディア学部と山武郡市教育委員会で構成する「山武郡市文化記録プロジェクト」が制作したミニドキュメント『牛飼い歌人～伊藤左千夫～』が優秀賞に選ばれ、あわせて特別賞である「千葉県視聴覚教育連絡協議会長賞」も受賞しました。このプロジェクトでは、多くの功績を残した地域出身の人物を紹介するミニドキュメンタリー作品を制作しており、本作品では現在の千葉県山武市出身の著名な歌人・小説家である伊藤左千夫の生涯を、貴重な資料や歌碑などにイメージ映像を加えて描いています。

本作品の映像・ナレーション・音楽の表現の工夫や、丁寧な取材と構成、優れた制作技術などが高く評価されて今回の優秀賞受賞となりました。

2012年1月12日に千葉県総合教育センターで開催された表彰式には、制作を主に担当したメディア学部４年生の池島亜矢乃さん、笹原麻美さんと教育委員会の池田みどりさんが参加し、壇上で表彰状とトロフィーを受け取りました。

また、2011年3月に本学を卒業した土田成美さんの卒業制作「お米づくり」も学校教育部門で佳作に選ばれており、千葉県メディアコンクールにおける本学制作作品の受賞はこれで4年連続、優秀賞の受賞は3年連続となり、受賞作品数は5作となりました。これらの作品は視聴覚教材センターを通して県内外で教材として活用されており、今回の受賞作も様々な学校で文学や地域を学ぶ教材として幅広く活用されます。

U.S.-JAPAN WOMEN'S JOURNAL（日米女性ジャーナル）／Review of Japanese Culture and Society 出版活動

日米女性ジャーナルは1988年、日米間を中心に他地域を加えたグローバルな視点に立ったジェンダー研究の学術交流、情報交換を目的として創刊されました。以来、女性問題、男性問題、家族、労働、社会問題、文化研究等、幅広い分野をカバーし、学術論文、時事問題、インタビュー、資料等を掲載しています。これは英語で発行されており、日本のジェンダー研究・情報の海外への紹介、海外での日本研究の普及、日米比較研究の奨励を目的としています。

同じくReview of Japanese Culture and Societyも1986年から英語で発行されており、この2つの英文誌は、海外へ日本の文化・研究を紹介するのに大きな役割を果たしています。

JICPAS publishes two kinds of English language journals, U.S.-Japan Women's Journal and the Review of Japanese Culture and Society. The U.S.-Japan Women's Journal aims to exchange scholarship on women and gender between the U.S., Japan and other countries while the Review of Japanese Culture and Society is devoted to the scholarly examination of Japanese art, literature, and society. Both journals welcome contributions from experts on Japan.

◆ U.S.-Japan Women's Journal　http://www.josai.jp/jicpas/usjwj/index.html
◆ Review of Japanese Culture and Society　http://www.josairjcs.com/

第３回高校生小論文コンテスト表彰式が行われました

2011年11月5日、第3回吉増剛造賞高校生小論文コンテスト表彰式が行われました。

今回のテーマは「地球市民として生きる」とされ、合計439篇の応募がありました。特に、3月の東日本大震災の後に世界各地から日本に支援の手が差しのべられた中、ひとりひとりが地球で生きる地球市民として今後何をすべきかについて深く考えられた作品が多数寄せられました。そのなかから最優秀賞1名、優秀賞3名、佳作7名が選ばれ、受賞者には賞状と記念品が授与されました。さらに、最終選考に残った作品から9名に奨励賞、海外からの応募者から2名に国際部門賞が贈られました。

吉増剛造先生の講評

表彰式終了後、受賞者への贈り物として、吉増剛造先生からイギリスの詩人、ウィリアム・バトラー・イェイツについて自作の映像作品を上映しながら紹介がありました。

表彰式後に、受賞者は新聞社や学部学生のインタビューを受け、その後、学科教員や在学生とともに、当日併せて開催していたJIUフェスティバルの模擬店や展示、学内の水田美術館の展覧会などを楽しみました。

＜最優秀賞＞・橋本　綾音　（千葉県立浦安高等学校）
「行動すること。そして、考え、また行動する」

＜優 秀 賞＞・加瀬　紗弥香　（千葉県立旭農業高等学校）
「このままではいけない！地球市民としての食糧事情」
・藤原　まゆ　（北海道札幌国際情報高等学校）
「踊らされる人」
・和田　麻美　（長野県長野高等学校）
「自然と共に生きる」

表彰式後全員で記念撮影

文化・出版を通しての貢献（次世代育成・グローバル教育）

2011年度水田美術館の展覧会・講演会

水田美術館における2011年度の活動をご紹介します。
城西国際大学創立20周年記念として以下の展覧会を実施し、地域の方々をはじめ数多くの方にお越しいただきました。

◆城西国際大学創立20周年記念　浮世絵で遊ぶ―江戸の笑いと想像力―

会　　期：5月10日[火]～6月4日[土]
特別協力：稲垣進一氏、協力＝玉川大学教育博物館
内　　容：おもちゃ絵から戯画、だまし絵まで、遊び心から生まれた浮世絵、すなわち遊び絵を紹介しました。寄せ集めから新たなイメージを作る寄せ絵や、切って貼って遊ぶ組上絵、謎解きが仕掛けられた判じ絵など、様々な遊び絵を展示し、また複製で自由に遊べるコーナーを設けました。斬新なデザインに驚き、ナンセンスな洒落に笑い、謎解きに挑戦し、江戸時代の人々の自由な発想と豊かな遊びの精神を楽しんでいただきました。
関連企画：（１）講演会　6月4日[土]　演題　遊び心の浮世絵
講師　稲垣進一氏（国際浮世絵学会常任理事）
（２）ギャラリートーク＋遊び絵体験　5月21日[土]、28日[土]

◆城西国際大学創立20周年記念　近世版画の色と技―浮世絵から若冲の拓版画まで―

会　　期：6月21日[火]～7月16日[土]
内　　容：浮世絵版画は、新しい色彩や技術を獲得しながら発展しました。本展では、初期から明治時代までの浮世絵版画に使用された「色」に焦点を当て、絵の具の特徴と使用方法、輸入絵の具の導入の様子を、春信、清長、北斎、英泉、広重、国芳、芳年など各時代の絵師の作品によって示しました。また、江戸の錦絵に対する上方の版画技術として、合羽摺（かっぱずり）、伊藤若冲（じゃくちゅう）の拓版画を取り上げ、版画技術の多様性を紹介しました。
（１）シンポジウム「近世版画の色と技」
関連企画：日時：6月18日[土]
会場：学校法人城西大学紀尾井町キャンパス・多目的ホール
基調講演：小林忠氏（千葉市美術館館長）
発表者：田辺昌子氏（千葉市美術館学芸課長代理）、下山進氏（備国際大学教授）
福士雄也氏（静岡県立美術館学芸員）
浮世絵版画の摺り実演：アダチ版画研究所
（２）浮世絵版画の摺り実演会
（３）学芸員によるギャラリートーク

◆城西国際大学創立20周年記念　水田コレクション 浮世絵名品展 特集＝四季の風物詩

会　　期：10月4日[火]～10月22日[土]、大学祭11月5日[土]～7日[月]
内　　容：四季折々の豊かな自然と風土に恵まれた日本では、古くより土地と季節や時間が結びついた名所絵や、12ヶ月の風物を描いた月次絵などが描かれてきました。江戸時代に花開いた浮世絵にも、庶民に親しみ深い季節の風物が描かれています。5月の年中行事を描いた《賀茂競馬図屏風》や、菱川師宣の《虫籠美人図》、9月の「重陽の節句」で菊酒を嗜む魚屋北渓（ととや ほっけい）の《酔余美人図》など、季節と暮らしの風情をとらえた名品を紹介しました。
関連企画：（１）講演会　10月8日[土]　演題　「近代美人画の個性派―北野恒富とその周辺―」
講師　橋爪節也氏（大阪大学総合学術博物館館長）
（２）学芸員によるギャラリートーク　10月15日[土]、22日[土]

◆城西国際大学創立20周年記念　描かれた万葉の世界 近代日本画にみる古代への憧れ

＊「万葉の杜」再整備記念
会　　期：11月15日[火]～12月10日[土]
内　　容：キャンパス自然環境向上プロジェクトの一環として行った「万葉の杜」の再整備を記念し、万葉をテーマにした展覧会を行いました。7世紀から8世紀にかけての4500首余りを収める日本最古の歌集・万葉集には、上代の自然、風土、人々の営みや心情が力強く表されています。万葉歌人を描いた歴史・人物画と万葉植物を描いた花鳥画を中心に、近代以降の日本画家たちが万葉をモティーフに描いた作品で、今なお日本人の精神文化の原点であり続ける万葉びとの心、上代イメージの一端を紹介しました。
関連企画：（１）講演会 11月26日［土］　演題　「万葉歌のまなざし―飛鳥・奈良の風景―」
講師　井上さやか氏（奈良県立万葉文化館万葉古代学研究所主任研究員）
（２）学芸員によるギャラリートーク　12月3日［土］、10日［土］

5年目の嶺岡（みねおか）林道桜並木修復プロジェクトに社団法人霞会館からも桜50本寄贈

出席者による桜の植樹

2011年4月14日、嶺岡林道桜並木修復プロジェクトの活動としてさくら祭りが開かれ、同林道に社団法人霞会館（理事長：北白川道久）より寄贈いただきましたソメイヨシノ50本を植樹する植樹式が行われました。社団法人霞会館は、日本固有の伝統的な精神文化を後世に伝え、健全な国民の育成及び社会福祉の増進に寄与することを目的にした団体です。

創設者の水田三喜男先生が昭和40年代に地元の皆様と共に植えた500本の桜並木を修復して後世に伝えようと、観光学部の創設とともに始まった本プロジェクトも5年目を迎え、鴨川市民の皆様の御協力もあり、活動への協賛が着実に広がってきています。植樹式には、地元の皆様や曽呂小学校の皆様、観光学部の学生や本学の留学生（中国、韓国、台湾、アメリカ、カナダ、ハンガリー、ノルウェー、ドイツなど）、大学関係者等が出席し、砂かけを行いました。その後、本学学生フォークデュオLOFTによる桜まつりのテーマソング『サクラホーム』のチャリティーコンサートや、地元の曽呂小学校の皆さんによる歌の披露もありました。また本年は、3月の東日本大震災も受け「安全・安心な鴨川市を全国へ発信・アピールする」一環として、鴨川産の食材を使用したお弁当のチャリティー販売を行い、この収益を被災地出身学生の支援基金に充てられるなど、あらためて「チームJOSAI」の結束力を強くした一日になりました。

愛媛県鬼北町で環境社会国内研修

山林の環境調査

城西国際大学環境社会学部では、愛媛県鬼北町において、2011年8月22日から7日間の日程で「環境社会国内研修」を実施しました。研修地である鬼北町は、日本一の清流と言われる四万十川に注ぐ支流〈広見川〉が地域内を貫流するなど、豊かな自然に囲まれた立地です。

本研修は、自然環境及び地域産業の調査、独自産業であるキジ工房での体験実習など、環境に関わる課題やそれに対する取り組みに直に触れ、具体的な解決策を提言します。昨年度から取り組んでいる山林の使用については、今年度さらに踏み込み、山林の現状を定量的に測定しました。データに基づいて評価を試みることで、山林原野の抱える問題を統計的に浮かび上がらせ、より具体的な運用と山林資源の管理と利用について提言することができました。環境問題を肌身で感じ、自然活用についての分析と地域活性化を考える中で、学生たちは環境人材としての歩みを進めています。

8月28日に全てのプログラムを無事終了しました。鬼北町当局と町民の方々からの全面的な協力のもと、実りの多い研修となりました。

また、この研修は9月24日の毎日新聞でも写真付で大きく紹介されました。

毎日新聞記事（9／24付）

房総地域（次世代育成・地域活性化）

第1回水田杯少年野球大会、第3回水田宗子杯ソフトボール大会を開催

少年野球大会の熱戦

ソフトボール大会での選手宣誓

安房キャンパスがある鴨川市内を会場に、鴨川市・南房総市・館山市・鋸南町より13の少年野球チームが集まり、南房総ナンバーワンを争う、「第1回水田杯少年野球大会」を城西国際大学主催で2011年7月9日・23日に開催しました。

鴨川市営球場での開会式では、大会会長である本学客員教授で元オリックス・ブルーウェーブ監督の石毛宏典氏が、子供達に対して、チームの「和」を大切にすると共に、野球というスポーツを通じて「仲間」を作って欲しいとメッセージを送りました。鴨川市は学校法人城西大学を設立した水田三喜男先生の生誕地でもあり、本学はスポーツを通じて少年の健全育成と地域への貢献を掲げ、昨年観光学部には軟式野球部が発足しました。

また、8月20・21日の2日間にわたり、「第50回千葉県高等学校東房総地区女子ソフトボール大会 兼第3回水田宗子杯女子ソフトボール大会」が城西国際大学グラウンド、水田記念球場において開催されました。

初日は予選トーナメントで各校が熱戦を繰り広げ、千葉黎明高校、成田国際高校、幕張総合高校の3校が1位リーグへの進出を決めました。

最終日は悪天候に見舞われ、残念ながら第1試合途中で雨天中止となり、第1日目の予選トーナメントで1位リーグ進出を決めた3校（千葉黎明高校、成田国際高校、幕張総合高校）が同時優勝となりました。

「水田三喜男杯争奪選抜高等学校柔道大会」「水田三喜男旗争奪選抜高等学校剣道大会」開催

柔道大会の熱戦

剣道大会の熱戦

城西国際大学は、学校法人城西大学の創設者である水田三喜男先生が志した文武両道の精神を受け継ぎ、心身ともに優れた人材を育成する活動の一環として「水田三喜男杯争奪選抜高等学校柔道大会」および「水田三喜男旗争奪選抜高等学校剣道大会」を2001年より毎年実施しています。ともに11回目となった今年は城西国際大学創立20周年記念大会であり、全国から集まった名だたる強豪校の選手達が互いの鍛錬の成果を発揮しあう白熱した大会になると共に、スポーツを通じた交流を大いに深めました。

「水田三喜男杯争奪選抜高等学校柔道大会」は、2011年12月26日に城西国際大学スポーツ文化センターで開催されました。本大会は創設者が柔道にいそしんでいたことにちなみ発足したもので、当初は関東地区の男子15校のみの参加で行われましたが、2回目からは女子も参加。現在では全国の強豪校が集う大会として年末の風物詩となっています。今大会では男子の部は桐蔭学園高等学校（神奈川県）が見事優勝し、女子の部は、市立沼津高等学校（静岡県）が優勝を果たしました。

「水田三喜男旗争奪選抜高等学校剣道大会」は、2012年2月5日に同センターで開催されました。

今大会は、韓国からの選抜チームを含む全国の高等学校から選抜された男子32チームと女子32チームが、水田三喜男旗をめざして熱戦を繰り広げました。その結果、男子は高千穂高校（宮崎県）が初優勝を飾り、女子は守谷高校（茨城県）が2大会連続優勝を果たしました。

文化財修復・保存（次世代育成・地域活性化）

水田三喜男生家を修復、保存～そして文化財登録へ

・水田家の由来

旧水田家がある旧曽呂村(鴨川市)は、嶺岡山脈の南麓を東から西へ通じる道を中心とした五百戸余りの山村で、嶺岡山は、わが国酪農の発祥地として知られています。

江戸時代からこのあたりでは毎年5月、大変なにぎわいの中、馬捕りの行事が行われており、そこに幕府の役人が来て牛馬を見定めする場所を陣屋と称しましたが、庄屋のような役割を果たし、村の指導的立場にあった水田家は、この陣屋と地続きとなっていました。また、江戸後期に作られたこの家は、大正12年の関東大震災でも近隣の建物がほとんど崩壊した中でも、無事に残りました。

・旧水田家住宅の特徴

「重厚な長屋門の入口が額となって、茅葺の寄棟造の母屋が望まれる。東側を土間とし、囲炉裏を切った15畳の座敷を中心に、5室からなる豪農の家である。西側に縁側をそなえ、南面に瓦葺の下屋を差し掛けた房総民室の特徴を示している。

長屋門の左右には、それぞれ牛小屋が置かれ、かつて嶺岡牧場と関わる酪農を営んでいたことを物語っている。

これら母屋、長屋門は、優に百数十年以上経て居り、貴重な文化財として、文化庁に登録されているが、篤農の堅実さと、安房特有の進取の気象の見事な結晶といってよい。また、この家屋の一隅にある書斎から、遠き潮騒を夢見ながら、ひとりの有為な青年が巣立っていった。城西大学の創立者、水田三喜男である。戦後の日本経済再建の偉業は、そのまま継承され、「学問を通じての人間形成」の理念となった。その母胎こそ、まさに、この家屋なのである。」とのコメントを城西国際大学前水田記念図書館長井上辰雄氏が寄せています。

・修復事業

この生家を、同窓生が呼びかけて、城西大学同窓会30周年記念事業として、創立者の偉業をたたえ、城西大学の建学の精神はもとより後世にその功績を伝えるため、修復・保全に取り組みました。

創立者が過ごした当時の姿を取り戻した生家では、昔の酪農家の暮らしぶりや古い建物に見える工夫を実際に目にすることができ、同窓生や学生をはじめ、留学生や地域の子どもたちが数多く訪れています。また、桜やノボタン、新緑や紅葉の季節に合わせて何度も訪れる方や、遠方からわざわざいらっしゃる方もいて、2002年に一般公開を始めて以来、毎月400名ほどが見学されています。

・文化財としての価値

2002年に、長屋門と母屋が国の登録有形文化財として登録されました。

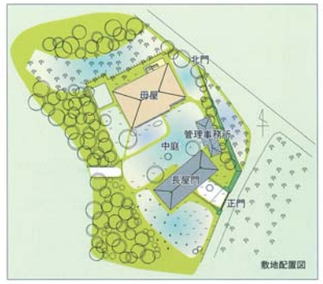
また、地域の特性や周辺の環境に充分な配慮がなされ、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出したことを評価され第10回千葉県建築文化賞を受賞しています。

修復後の長屋門

母屋　内観

修復前の長屋門

母屋



◆ 旧水田家住宅　http://www.jiu.ac.jp/mizutake/index.html

建築賞受賞（次世代育成・地域活性化）

多数の建築賞を受賞しています

❖ 清光会館

1992年さいたま景観賞

清光会館は、新しい大学に求められる国際化・情報化に対応し、1992年に完成した城西大学の中枢を担うシンボリックな建物です。城西大学の学術・文化のシンボルとして、集中管理された高い機能と充実した施設・設備を誇っています。

同年、秩父の丘陵を望むその美しい外観によって埼玉県景観賞を受賞しました。

❖ 清光会館

❖ 鋸南セミナーハウス

2005年度 第12回 千葉県建築文化賞「景観に配慮した建築物」
2006年 第32回 東京建築賞建築作品コンクール「優秀賞」

鋸南セミナーハウスは創立35周年を記念して、城西大学同窓会の協賛もいただき2004年に建設されました。

豊かな自然を取り込むための半野外空間の構成に重点を置き、木目の奥行きのある内外のリズミカルなシーンの展開により、美しいたたずまいとなっています。その心地よさと周囲の景観にふさわしい建物であることが評価され、千葉県建築文化賞と東京建築賞において「優秀賞」を受賞いたしました。

❖ 鋸南セミナーハウス

❖ 城西大学 経営学部棟

2008年 全米建築学会 Merit賞

城西大学経営学部棟は、米国建築家協会（AIA: American Institute of Architects）ニューヨーク支部より2008年度メリット賞を受賞しました。

AIAは2008年度にはじめて教育的な建物（2001年1月11日以降完成の建物）についての部門を設け、その栄えある第一号を経営学部棟が受賞しました。

❖ 城西大学 経営学部棟

❖ JIUランドスケープデザイン

1996年日本建築学会賞
2006年度日本造園学会賞

城西国際大学では、自然景観と調和したキャンパスを目指してきました。そのランドスケープデザインに対し、「端正な中にも透明感と伸びやかさ」がある「成長するキャンパス」との評価を受け、日本建築学会賞と日本造園学会賞を受賞しました。

❖ 旧水田家住宅

2003年度 第10回千葉県建築文化賞

地域の特性や周辺の環境に充分な配慮がなされ、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出したことを評価され第10回千葉県建築文化賞を受賞しています。

※写真については、左ページをご覧ください。

❖ JIUランドスケープデザイン

「地域に根ざした大学としてさらなる発展を」

坂戸市長
伊利 仁氏

城西大学は、1965年に坂戸市けやき台の地に創設されて以来、今日まで本市はもとより我が国の教育水準向上の一翼を担うとともに多彩な社会貢献活動を実践され、地域社会に大きな足跡を残されておりますことに深く敬意を表する次第であります。

本市との関係では、まちづくり全般を対象とする相互連携協力に関する基本協定をはじめ、健康づくりや災害時における協力、さらには、教員を目指す学生のスチューデント・インターンシップ事業など様々な協定を締結するほか、坂戸よさこい等のイベントに対する協力や官学共同による研究事業の実施、また、城西健康市民大学の開校など地域に根ざした大学として多大なご貢献をいただいております。

本市では、今後も参加と協働による質の高い行政運営を目指し、市民・産・学・官の連携による各種事業を積極的に推進してまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、個性豊かな地域社会創造のため、城西大学と本市との協力関係がより一層発展することを大いに期待するものであります。

「スポーツを通じた人材育成、地域貢献を」

財団法人
日本サッカー協会
名誉会長
川淵 三郎氏

学校法人城西大学は、スポーツを通じた人間・人格形成に早くから力を入れてこられました。中でもサッカー部は、長年日本代表のチーム・コーディネーターを務めた小山哲司氏が城西国際大学サッカー部の監督に就任したこともあり、今後の飛躍を大いに期待しているところです。

近年、大学サッカーからも有能な選手が大勢台頭してきていますが、小山監督が日本サッカーのスピリットや我々の理念など、心・技・体で、学生選手に伝えてくれることにより、日本サッカーの土台はより強固になっていくはずです。

さらに、今回、城西国際大学では創立20周年記念行事としてサッカー場が建設中であり、完成後は、地域におけるスポーツ交流の場として活用されていると聞いています。それはまさに日本サッカー協会の理念である“サッカーを通じた地域のスポーツ振興”と志をともにするものであり、誠に素晴らしいことだと思っています。

今後も、学生の皆さんがスポーツを通じてチームワークやリーダーシップを身につけることにより、同校からグローバルに活躍できる人材が多く輩出されることを願っています。

「城西国際大学看護学部とともに」

成田赤十字病院
院 長
加藤 誠氏

成田赤十字病院は、千葉県唯一の赤十字病院であり、北総地域の中核病院として、救急医療、高度医療および災害医療等を担っております。現在、城西国際大学の薬学部の学生実習を引き受けさせていただいておりますが、城西国際大学に本年4月に開講される看護学部の学生実習も引き受けさせていただくことになっております。大学とともに地域医療にそして赤十字の特色である災害医療に役立てる学生育成にご協力したいと思います。

また、日本赤十字社は多くのボランティアによって支えられており、赤十字ボランティアの中には、将来の赤十字活動の中心となるべき青年や学生が、赤十字精神に基づき、若い力を集結して活動する青年赤十字奉仕団があります。県内では、災害救護、献血推進、救急法等講習会への参加、臨時救護などの活動を積極的に実施しています。

是非とも、地域・社会貢献活動を積極的に推し進める貴校学内に青年赤十字奉仕団を設立し、多くの赤十字の仲間とともに活動していただけることを期待しています。

「学校法人城西大学に望む国際文化交流活動」

駐日ハンガリー 特命全権大使
セルダヘイ・イシュトヴァーン氏

2011年9月に駐日ハンガリー大使として着任しましたが、外務省への入省前にはブダペスト大学近代・現代世界史学科そして日本学科の教授を務めていました。専門は外交史、比較政治学、そして近代・現代日本史です。学生時代は神戸大学に留学しており、若者にとって留学は、他国の言葉、文化、歴史などを体験し、覚えるのにいかに貴重な機会か、自分でも確信しています。ブダペスト大学日本学科の学生の中からも数人は城西大学・城西国際大学に留学していることを大変嬉しく思っております。

学校法人城西大学は、長年にわたりハンガリーの数多くの大学と学術交流を続け、東京近郊でハンガリー人教師によるハンガリー語講座がある唯一の大学です。
更に学内ではハンガリー関係の様々な文化行事が開催され、ハンガリー大統領、政府関係者も紀尾井キャンパスを訪問しました。学校法人城西大学の水田理事長のこのようなご理解とご尽力をハンガリー政府が高く評価し、2010年にはハンガリーの文化勲章を授与しました。

今後、学校法人城西大学はハンガリーと同様の交流を中欧4カ国にも拡大されたいご意向のようですが、最初の交流相手がハンガリーであったことを大変誇りに思うと同時に、ハンガリーとの交流が今まで以上に発展することを願っております。学校法人城西大学の今後の社会貢献活動でのご成功をお祈り申し上げます。

編集後記

2011年度版学校法人城西大学社会貢献活動報告書をお届けできることを大変うれしく思います。取組事例を本学が社会貢献活動を行うに際し、特に大切にしているキーワードごとに分類し紹介いたしましたので、どうぞご覧ください。また、美術館関係と建築関係については、年度を超えて掲載してあります。

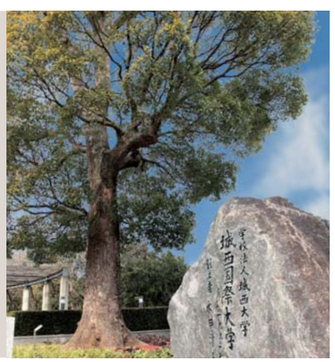
2008年に初めて社会貢献活動報告を作成し、それ以来毎年の作成作業を通じ、学校法人全体として、自らの活動内容を把握し、その意義の確認をするとともに、反省や工夫を次年度へ活かすことができました。

また、特に今年度は、3月の東日本大震災を受け、教職員や学生一人ひとりが「自分たちに今何ができるのか」を真剣に考え、様々なボランティア活動や募金、研究・講座・提言等の復興支援活動に積極的に取り組みました。被災地の一日も早い復興をお祈りするとともに、本学もできる限りの活動を継続していく所存です。

この報告書により城西大学・城西国際大学・城西短期大学の社会貢献活動にご理解をいただくとともに、皆様からの忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

学校法人城西大学　法人本部
社会貢献推進チーム
社会貢献活動報告書作成チーム

〈表紙デザインについて〉

東金キャンパスの楠の木

城西国際大学東金キャンパスの正門脇にそびえ立つ大きな楠は、大学のシンボル的存在として四季折々に親しまれており、これまでの大学の歩みと共に年々大きく育ってきました。
そして昨年の11月5日には、この楠の木の横に、城西国際大学の創立20周年を記念して創立者である水田清子名誉理事長の業績を称えるとともに、今後の大学発展に寄与したいとの想いで同窓生一同の提案に父母後援会等からも賛同を得て「創立の石碑」が建立されました。楠の木は古来から生命力の強い木として知られ、神社のご神木として祀られているものも多数あります。本学の楠の木も、これからの城西国際大学の発展と学生達の成長を暖かく見守ってくれることでしょう。